

今こそ平等な力を

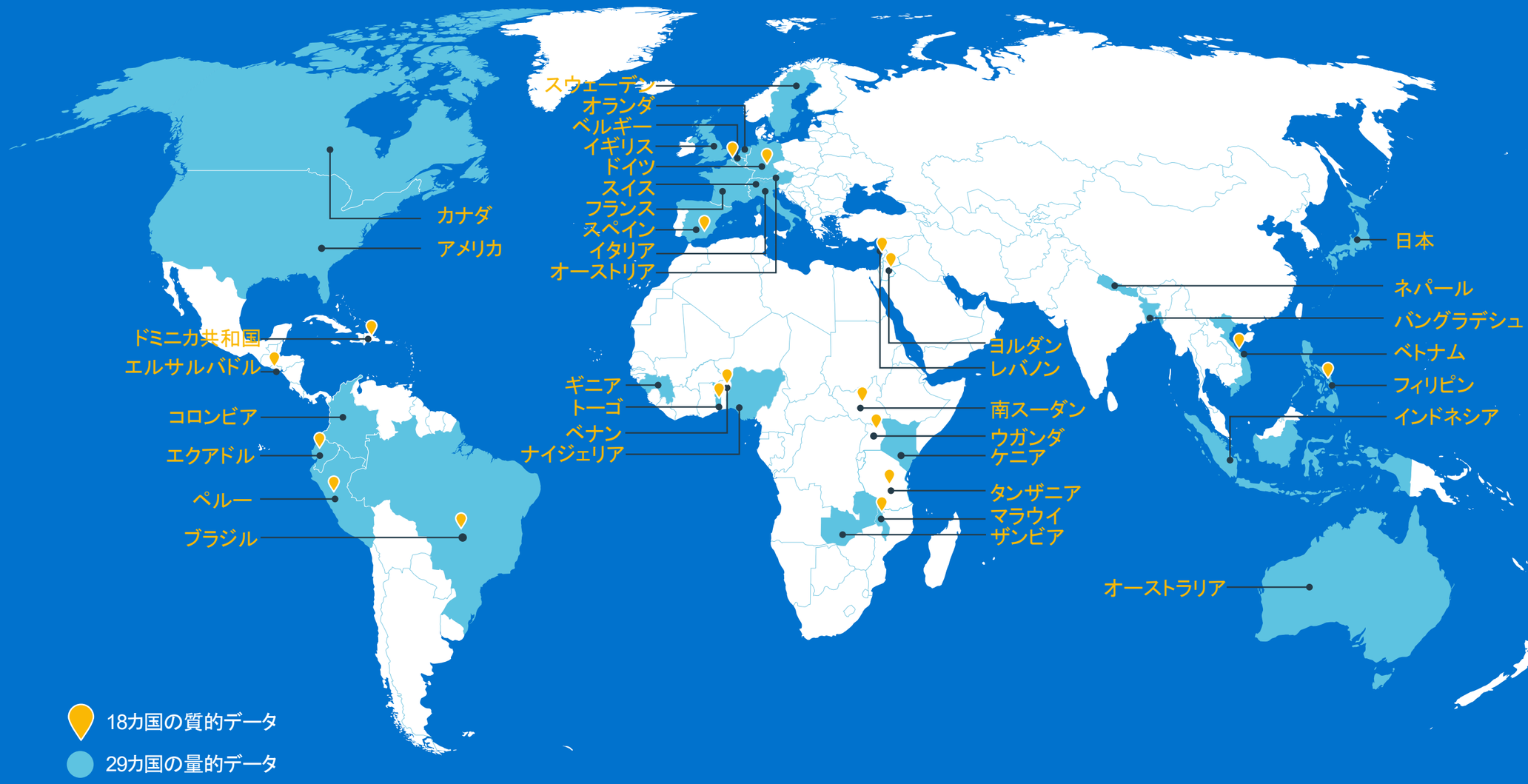
女の子と若い女性の政治参加

世界ガールズ・レポート

2022

今こそ 平等な 力を

女の子と若い女性の政治参加



この地図に示された境界線と名称、および呼称は、プラン・インターナショナルによる公式な承認または受諾を意味するものではない。

免責事項：本文中では、政党や政治家について言及しているが、これはプラン・インターナショナルがその政策や政治的立場に対して、いかなる提携や同意をしていることを意味するものではない。本レポートに登場する女の子やユース女性の名前は、匿名性確保のため、仮名を使用している。

プラン・インターナショナルは、2007年に初めて「世界ガールズ・レポート」を発表した。女の子とユース女性の政治参加に関する2022年のレポートは、毎年、特定の環境または分野において女の子の自由と機会を制限する行動、態度、信念について実施してきた調査結果を報告する新シリーズの5作目である。今年の研究は、混合法によるアプローチで36カ国にわたって行われた。29カ国で約2万9,000人の思春期の女の子とユース女性を対象にしたアンケート調査や、18カ国で行われた詳細なインタビューなどが含まれる。

研究方法の詳細については、***58ページ***を参照のこと。

© Plan International / Alvaro Gumucio Li

プラン・インターナショナル、最高経営責任者（CEO）から



今年の「世界ガールズ・レポート」は、政治参加への理解に焦点を当て、女の子とユース女性にとってそれが何を意味するのか、という問いを立てました。

国際法では、ユースには自身の生活に影響を与える意思決定に参加する権利が与えられています。しかし残念なことに、女の子やユース女性が意思決定に参加することは現実的には困難です。私たちがインタビューした女の子やユース女性たちは、無視されていると感じることが頻繁にある、と言っていました。たとえドアが開かれていても、彼らの参加は形だけのもので、彼らの貢献が組み入れられることはないのです。つまり、彼女たちの現在と未来に影響を与える多くの決定が、彼女たちとともにではなく、彼女たちのためになされているのです。

私たちのレポートから、女の子やユース女性は、貧困や失業、気候変動や環境、健康や教育など、幅広い分野の重要な問題について不安を抱いていることがわかります。彼女たちは世界をより良い場所にすることに関わりたいと考えており、世界は持続可能な変化を実現するために彼女たちのエネルギーと洞察力を確かに必要としているのです。私たちは、女の子たちが自分の国やコミュニティに貢献したいと望んでいることを研究から認識しており、女の子たちの権利を擁護する必要があるのです。私たちは、女の子とユースが意思決定のテーブルにつくだけでなく、その参加が彼らの日常生活や機会の確保の大幅な改善につながるよう、協力しなければなりません。

プラン・インターナショナルは、すべての女の子が自身の権利を知り、行使し、自ら選んだ人生を歩むことができる世界を望んでいます。この新しいレポートが、世界中のユースたちとともに、私たちが進むべき道を示すのに役立つと確信しています。

Stephen Omollo

写真：World Vision

目次

序文 6
まえがき 7
要約 8
はじめに 10
舞台設定 14
私たちが学んだこと 20
結論 52
提言 54
研究方法 58

序文

Tien（23歳）は、大学でジェンダー平等に関心を持ち始め、プラン・インターナショナル・ベトナムのユース諮問委員会の代表を務めつつ、ソフトウェア会社で事業開発マネージャーとして働いている。ここでは、プラン・コロンビアの 活動家で、大学で勉強を始めたばかりの**Keiver（17歳）**と対話している。





Tien:

このリポートのテーマは、私個人的にとって大きな意味がある。私は政府とのやりとりを通じて、ユースや特に女性が政治的主張において直面する壁に早くから気づいていきました。私は、その壁に最初のレンガを打ち込み、ユースの声を高め、私たちが関心を寄せる問題についての政治的決断に影響を与えたいと考えているわ。Keiverはどう思う？

Keiver:

男性が政治的な場を支配していることを考えると、僕は男性として、女性が女性であるというだけで、こうした場に参加できない、参加すべきではない、あるいは向いていないと言う多くの人々を変えていきたいと思っている。僕は女性の価値と能力を信じているから、この問題には関心を持っているよ。女の子やユース女性の政治参加に関して、理想的な世界はどのようなものだと君は思う？

Tien:

私は、女の子たちが意思決定者とともにテーブルを囲むことができるような世界を想像しています。私たちは、自身の課題、懸念、期待、そして提言について話し、共感と忍耐をもって、解決に向けた話し合いをすることができるはずだから。

Keiver:

僕も公平な世界を夢見ているよ。それは、女性が自身の能力を発揮し、知識を深める機会が平等に与えられている世界。女の子、思春期の女の子 、ユース女性の政治参加を促す行動を続け、僕たちからその模範例を生み出していこう。

Tien:

あなたの言う通りね。政治に取り組むユース、特に女の子やユース女性の団体やグループは、革新と改善の源になると思う。ユースの新鮮な考えやアプローチによって、私たちの関心事が政策に反映されるようになるはず。だからこのリポートが、この問題の認知度を高め、解決策の発達に貢献するための小さな第一歩となることを心から願っています。

Keiver:

賛成。人々がこの問題を理解し、ユース女性の参加の妥当性に気づき、あらゆる場面で同じように支持されたらなと思う。

Photo：Plan International

Photo：Keiver

まえがき

元国連ユース使節、Nala Feminist Collective創設者兼議長
Aya Chebbi

私は、女の子のリーダーシップのためのプラン・インターナショナルの活動をフォローしてきましたが、政治参加に関するこの新しいレポートが世界と共有されることに、とても感激しています。

このことは、私が自分の政治的発言の力を見出したときのことを思い起こさせます 。2011年のチュニジアの革命では、私は自由のために死を恐れず最前線に立ちました。 女の子としての自由とは、安全であること、選択権があること、性と生殖に関する健康へのアクセスがあること、教育と給食を受けられること、経済的自由の扉を開くこと、政治力を持つ対等な人間であり、そうなることができ、またそこに所属することが可能であることを意味します。

夕食時の家族の話し合いからハイレベルな交渉の場に至るまでユース女性の政治参加がなくては、これらの自由が保証されることはありません。女の子たちの声を否定することはできませんし、彼女たちの経験が認識されないままであってはなりません。

どの世代も、女性が世界の約半分を占めており、女性にも人口統計学的な力、投票力、動員力、革新力といった強力な力があることを意味します。私たちの闘いは声を上げるための闘いなので、誰も耳を貸さないときには街頭に出ます。アフリカでは、人口の平均年齢は20歳です。しかし、アフリカの指導者の平均年齢は64歳で、この世代間ギャップが、アフリカに限らず、ユース女性を政治システムから排除しているのです。

今、この問題に取り組まなければ、人口が倍増する今世紀末には、格差はさらに広がるでしょう。アフリカ連合ユース使節としての職務の中で、私は「世代間共同リーダーシップ」と呼ばれるものを推進してきました。私たちの世代と共同で設計されたものではない現行のシステムを、私たちが引き継ぐことはできません。今、この問題のあるシステムの改革を共同で先導し、このサイクルを断ち切り、世代間ギャップを埋め、そのずれを回復しなければなりません。

このレポートの研究からわかるように、ユース女性は政治活動に参加する能力があり、意欲的です。 他人の判断や意見に制限されることなく、自分自身の意見を述べ、自分自身を代表することができるのです。変化をもたらすために、世界はユース女性である私たちの力を信じる必要があります。

私たちの力は、システムを傍観したり、批難したりするのではなく、変化させるためにあるのです。人類を破壊するのではなく、より良くするためにあります。愛のある場所から、回復をもたらし、私たちの世界の壊れた空間を修復することにつながります。ユース女性たちは、政策形成のテーブルにつくだけでなく、「権力に真実を語り、それを有意義なものにする」私たちにふさわしい意思決定者の地位位置を占めなければならないのです。



Aya Chebbi

Aya Chebbiは、2011年のチュニジア革命の際に政治活動家・ブロガーとして著名になった汎アフリカ主義系フェミニスト・外交官である。史上初のアフリカ連合ユース特使、アフリカ連合委員会議長内閣（2018～21年）の最年少外交官を務めた。Nala Feminist Collectiveの創設者兼議長として、ユース女性を政治に参加させるための活動を行っている：職場、家庭、政庁、司法制度、女性の生活のあらゆる分野におけるジェンダー平等を求める「アフリカユース女性北京+25マニフェスト」の先駆者である。

Photo: Plan International

要約

この研究は、地域、所得水準、都市環境を問わず、**29カ国の15～24歳**の女の子とユース女性約2万9,000人を対象とした大規模な調査に基づいている。また、18カ国・94人のプログラム参加者と若い活動家である女の子とユース女性への詳細なインタビューも含まれている。

なお、匿名性確保のするため、女の子やユース女性の名前は仮名とした。

97%

が **政治に参加すること** は**重要だと考えている**

83%

が、政治に**参加・関与した経験がある**

24%

の政治参加を志す人が、**自分が政治家になることをイメージできている**

63%

が**何らかのグループや団体に属しており**、市民活動への参加度が高い

11%

が、自分が関心を持つ問題に対する**指導者の決定に概ね満足している**

5人に1人

が、政治への**個人的な関与**や参加を**ためらったことがある**

10人に1人

が、**「女性**は政治指導者になる**資格がない」と思っている**

50%

が、自身のコミュニティの見解では、女の子とユース女性が政治活動に関与することは**容認されると**信じている

研究結果からは、社会や女の子自身が女の子やユース女性にふさわしいと考えるジェンダー規範が、彼女たちの政治参加に強い影響を与えることが明らかである。また、女の子やユース女性は均質ではなく、彼女たちの意見は、場所、収入、性自認、宗教、民族、その他多くの交差性によって異なる。

参加者の中には、社会生活において女性が経験する不当な扱いやハラスメントによって意欲を削がれていたり、女性政治家が男性政治家よりも高い基準を設けられ、異なる方法で判断されることを認識している人もいた。それにもかかわらず、自分たちの人生を改善し、コミュニティや国に貢献するためには、女の子やユース女性の政治参加が重要であると考えている。インタビューした活動家の3分の1は、政治に永続的な変化をもたらすには、国家と直接的な関与をもつ正式な参加様式が極めて重要だと感じている。女の子やユース女性は、貧困や失業、環境や気候変動、教育や健康に至るまで、さまざまな問題に関心を持っている。しかし、調査回答者の94%が自分たちの行く手を阻む障壁を認識しており、自分たちが直面している課題を十分に認識している。女の子やユース女性は、しばしば見下され、耳を傾けられることはほとんどない。一部の国では、議会や地方議会における女性議員の割合が向上しているが、政治的なロールモデルが欠如しており、多くの状況において、女の子や女性の権利の後退が見受けられる。

こうした困難にもかかわらず、女の子とユース女性は、投票や請願書への署名から、多様なユース活動や学校評議会への参加まで、さまざまな方法で政治に関与している。また、彼女たちが政治について学び、意思決定者側の立場になろうとする場合、学校と家庭は重要な役割を果たすことになる。自分の住む地域における政治への参加は、より身近なものであり、多くが活発に関与できる。彼女たちには、自身の生活に影響を与える決定に参加する権利があり、自身の地域だけでなく、国家および国際的にもこれを実現する手段はいくつか存在する。

ユース女性の政治参加を拡大させる4つの道筋

あらゆるレベルの意思決定者…

十分な資金と説明責任を備えた政策、戦略、枠組みの採用を通じて、女の子とそのグループが有意義かつ安全な参加ができるようを制度化しなければならない。

国および地方自治体…

政治参加に向けた多様で包括的な道筋へのアクセスを確保しなければならない。これには、市民教育やリーダーシップの機会への資金提供や強化、地域の意思決定プロセスへの女の子の参加を実現することが含まれる。

政府・ソーシャルメディア（SNS）企業…

暴力を決して許さない姿勢を表明し、女性政治家や女の子の活動家が経験する暴力に断固とした措置を取らなければならない。メディア企業は、ポジティブなイメージを広め、オンラインとオフラインの両方で起きている女の子たちへの暴力に注意を喚起し、支援する必要がある。

国連、政府、市民社会…

市民社会における女の子が果たす重要かつ明確な役割を認識し、女の子の組織の危機や外的脅威に対する耐性や持続可能性を高め、彼女たちが利用しやすい資源を提供する必要がある。

女の子やユース女性は、その多様性の中で、**自身や自らが所属する組織**が地域社会や国の将来に対し役割を果たせるよう、**組織化し結集するためのあらゆる支援を必要としている。**

「彼らの決断は、すべての人々の行動や生活、他者 との関係、私たち自身が決めている限界、許されないこと、許されることに影響を及ぼします。だから、政治はとても重要だと感じています。」

Aurora、20歳、エクアドル



Photo: Plan International

はじめに

今年、世界が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が引き起こしたパンデミックから徐々に抜け出しつつある中、プラン・インターナショナルの「世界ガールズ・レポート2022」は、女の子とユース女性の政治参加に焦点をあてた。

政治的な意思決定は、最も配慮を必要としている場所や人々からかけ離れた場所で行われることが多い。だからこそ、女の子やユース女性が声をあげ、自分の意見や経験、権利を意思決定プロセスに反映させることは、極めて重要である。それは政治に参加する権利として、また政策に情報を提供し、生活と機会の向上を目指すプログラムを設計し、ジェンダー平等を促進するためにも重要である。

「男性は女性よりも賢いと思われていて、時には女性が権力者になると笑われるかもしれないという感覚から、強力な男性優位の文化がまだ残っていると思います。だから、それはまだ問題だと感じています。」

Juliette、21歳、ベルギー

政治的な領域でなされる決定は、女の子やユース女性の生活のあらゆる側面に影響する。それは、早すぎる結婚に対する法的保護を受けられるかどうか、性と生殖の権利が守られるかどうか、そして教育に割り当てられる予算に至るまでである。1973年に米国で合法的な中絶を認めたRoe対Wade裁判に 象徴されるように、女の子と女性の権利[1]が広く後退している状況において、女の子とユース女性が政治的決定に関与し影響を与える必要性がますます高まっている。

昨年の「世界ガールズ・レポート」「*The Truth Gap*～女の子が直面するオンライン上の有害な情報～」では、ネット上の誤った情報や偽情報について報告しており、それが女の子の活動を制限していることを明らかにした。4人に1人が自分の意見を他者に共有する自信がないと感じており、5人に1人が政治や時事問題への関与を完全にやめている。女の子やユース女性が政治的領域で活動する上での障壁は、これだけではない。これまでの「世界ガールズ・レポート」でも、女の子やユース女性に対する女性差別や暴力の恐ろしい文化が指摘されている：恐怖が彼女たちの可能性を阻害し、生活のあらゆる場面の移動を抑制し、自信を損なわせているのだ。

2018年の「都市にひそむ危険*Unsafe in the City*」は、この恐怖と女の子があらゆる公共空間で日常的に体験する暴力を明らかにし、2019年の「女の子たちに新しい物語を*Rewrite Her Story*」は、メディアのステレオタイプと表現の欠如が女の子たちのリーダーシップの野心にどのように影響するかを暴き、2020年の「女の子にオンライン上の自由を *Free to be Online*」は、58%がオンライン・ハラスメントを経験し、政治活動家が更に深刻な虐待の標的になっていることを明らかにした。これは、政治的に活動する能力と意欲の両方を阻害するだけでなく、学習する機会、友人や味方を作る機会、現代社会で十分に生きる機会を減少させている。

女の子の政治参加には、年齢とジェンダーという2つの特有の障壁が立ちはだかっている。その年齢によって、政治的権利が制限され、政治的プロセスへの参加にはまだ未熟である、と誤った判断をされる。そして*女の子だから*という、社会に残るジェンダー規範によって公的領域から遠ざけられ、男の子やユース男性であれば直面することがない障害に直面する。

「決断を迫られる役職についたりすると、私たち女性は論理的な思考ができなくなると考える人が多いのですが、これもよく聞く議論です。」

Sofia、24歳、スペイン

しかし、それにもかかわらず、新しい情報通信技術に後押しされ、女の子とユース女性自身が望む変化をもたらすために、ますますさまざまなルートを模索している。貧困、気候変動、紛争、教育、健康など、女の子とユース女性、そして私たちすべての人々にとって重要な問題に取り組み、多様なユース・ムーブメント、草の根の活動、集団行動が活発化している[2]。

「仲間ができれば怖くありません。1人ではなく、大勢になるのだから。一人で何かをするのは大変です。」

Rosamie、16歳、RCRL[3],フィリピン


© Plan International

政治参加の定義

政治参加は、女の子やユース女性が行う自発的な[4]活動である：

- *正式な政治的空間や確立された政治制度を通じて*
- *そのような空間や制度に影響を与えるために*
- *コミュニティの問題解決を含む、さまざまな政治的課題に関して、*
- *職場、教育機関、メディアなど広範な背景においては、それらを政治的活動と位置付けることが適切である。*

殊に女の子とユース女性の活動を調査においては、政治活動の定義を公的領域とそれ以上のもの、と広範に考慮することが重要である。そうすることで、女の子やユース女性が最もよく行っている活動を認識し、理解することができる。その活動は、主に公式な政治領域の外で、市民社会の一員として地域やコミュニティレベルで行われているものが多い。またその定義によって、女の子とユース女性がすでに持っている政治的知識と経験を認識し、評価することを可能にし、現在だけでなく将来にわたる政治主体者として女の子とユース女性の政治参加を最適に支援する方法の提言を明らかにすることができる。

政治活動は参加する人びとと同じくらい多様であり、「政治」は女の子やユース女性にとって適切な活動ではないという、誤った思い込みに挑戦しなければならない。

女の子とユース女性は一括りの集団ではない：彼女らは皆、異なる事情、機会、特性の影響を受けている別々の個人である。地域差もあれば、社会経済的地位、人種、信仰、民族性、性的指向、性自認を反映したさまざまな意見や経験を持っている。

LGBTIQ+である回答者、およびマイノリティ出身者は、政治的指導者に対してより否定的な見方をすることが判明した。

この調査で、年齢は政治参加に与える影響があまりないことが明らかになった。15～19歳の女の子は、投票のような活動はほとんどできないものの、その政治に対する姿勢は20～24歳のグループと大きな差はなかった。

しかし、女の子やユース女性は、その多様性の中で、貧困や失業、そしてそれが自身のコミュニティに及ぼす影響について、ますます懸念を高めていることが分かる。COVID-19のパンデミックから徐々に抜け出すにつれ、経済回復の遅れが影響を及ぼしている。気候危機の影響をすでに受けてきたコミュニティでは、家族の日々の食事にも苦労している。ウクライナでの紛争は、そこに住む人々の苦しみを超えて、さまざまな国や大陸で飢餓や食料不足を引き起こしている。世界中で資金供給が不足しており、家庭の収入に影響があるだけでなく、必要不可欠なサービスに対する政府の資金援助も脅かされている。

「私たちには食べるためのトウモロコシを買うお金もありません。隣に住む女の子たちは、1日1回しか食べられず、物乞いしなければなりません。」

Alice、16歳、RCRL、ベナン

気候変動、飢餓の増加、貧困、紛争はすべて無視することができない課題である。思春期の女の子やユース女性は、年齢を重ねるにつれて政治的意識が高まり、より社会問題への関心を持ち、地域や国の決定が自分たちの生活にどのように影響するかをますます意識するようになる。彼女たちが自身の権利を主張し、参加する能力を養うためには、彼女たちを支援しなければならない。彼女たちは若者として、自身の住む世界に影響を与え、その形成に貢献できるようになる必要がある。また、大人の女性として明日の世界にもたらすスキル、知識、政治的に活動し続ける意欲を今日から身につける必要があるのだ。

本レポートのために実施された広範な調査の包括的な目的は、多様な状況において、政治的・市民的参加と制度に対する女の子とユース女性の姿勢と経験を探り、理解することである。

- 女の子やユース女性は政治をどのように捉え、どのような政治課題を優先しているのか。
- 政治リーダーをどのように見ているのか、また、政治的領域で彼女たちが代表として適切に選出されていると感じているか。
- 政治に参加するという決断に影響を与えるものは何か？何が彼らを思いとどまらせ、何が彼らを奮い立たせるのか。
- 彼女らが重要だと感じている問題やキャンペーンにもっと積極的に参加できるようにするには、どのような戦略や支援が必要か。

「例えば、私はとても若く、国家レベルで活躍する2人の女性議員に注目しています。彼女たちは、中絶の権利のような課題に油断なく対応しています。彼らは…ここエクアドルでは有名です。私は彼女たちを尊敬しているので、その活動を注視しています。」

Aurora、20歳、エクアドル

舞台設定

政治参加と政治代表は、世界的にジェンダー格差が大きい。文化や歴史を通して、政治は年配の男性、多くの場合裕福な市民が特権と権力を持つ領域であった。

間違いなく進歩はしている。1960年までは女性が選挙権を持つ国は、世界の半数にすぎなかった。それが2020年までには、性別を理由に女性の選挙権を禁止している国はなくなった[5]。

しかし、2021年は16年連続で世界の自由が減少し、60カ国において政治的権利と市民の自由が純減し、増加を記録したのは25カ国にとどまった[6]。COVID-19のパンデミックはこの傾向を加速させた。感染拡大防止を理由とした規制が、反対グループの弾圧や選挙中の政治討論の場の抑制の手段として利用された国もある[7]。また、COVID-19のパンデミックによって、ジェンダー平等における多くの成果が後退させられることとなってしまった。すでに女の子と女性の権利を後退させ始めていたいくつかの国が、COVID-19のパンデミックを利用して、彼女らの権利やLGBTIQ+コミュニティの権利をさらに弱体化させたことを示す証拠がある[8]。

逆に、パンデミックによって加速したソーシャルメディアやインターネットの利用の急増は、女の子やユース女性が政治に関与する機会や方法を拡大する上で重要な役割を果たした。2022年4月現在、世界のインターネット利用者は約50億人：このうち46億5000万人、世界人口の58%がソーシャルメディアユーザーである[9]。このようなオンラインでの動きは、政治参加の状況を変化させ、特にユースは、正式な政治機関の境界の外で、政治参加することの意味を再定義しつつある[10]。

若者たちはますます幻滅し、政治家、政党、制度に対する信頼の欠如を表明しており[11]、世界のほとんどの地域で、ユースの正式な政治プロセスや制度への参加が減少していることが明らかになっている[12]。

Photo: Plan International / Max Goldstein

政治的リーダーシップと政治代表におけるジェンダーと年齢のギャップ:[13]

世界的に、政治的リーダーと政治代表は、特に国政において、依然として男性中心である:

10 カ国は、**女性の国家元首**

13 カ国は、**女性の国家行政長官**[14]

21% は、**女性の政府閣僚**[15]

26% は、**女性の国会議員**[16]

1% は、**世界の国会議員における30歳未満の女性**[17]

地方レベルでは、状況は若干改善されている。国連女性機関(UN Women)によると、世界のほぼすべての地域で、ユースを含む女性が国政よりも地方政府でより多くの議席を占めている[20]。しかし、ジェンダーと年齢のギャップは以前、根強く残ったままだ。地方自治体における女性の割合は男性よりも低いままであり、ユース女性は年配の女性に比べ、まだ十分な存在感を示していない。

現在の進捗率では、世界の政治におけるジェンダー平等を達成するのに155年かかると言われている[21]。

政治の舞台では男性を目にすることが多く、また、伝統的な国家機関や政治メディアの報道を独占していることも、大きな影響を人々に与えている。調査によると、主流メディアで女性の政治的ロールモデルが取り上げられると、女の子は将来の政治家である自分自身を想像してみる可能性が高くなる[22]。プラン・インターナショナルが行った過去の調査[23]に参加した一人は、次のようにコメントしている:

「誰にでも人生の手本となり、『あなたにはできる、あなたならできる』と言って、励ましてくれる人が必要です。」

女の子、15歳、ドミニカ共和国

平等な力をもつ人びと

首相



「すべての子どもがなりたいものになり、すべての人が尊厳を持って生き、成長できる社会をつくりたい[19]。」

2019年からフィンランドの首相を務めるサンナ・マリン(Sanna Marin)は、当選当時時34歳。フィンランド史上最年少で首相に就任した。彼女には4歳の娘がいる。彼女の首相歴は、彼女が若く女性であることに起因するいくつかの論争がないわけではない。彼女は専門学校で学び、家族で初めて大学に入学した。政治家としてのキャリアは、社会民主党のユース局でスタートした。フィンランドにおける彼女の頂点への道のりは、他国のそれと比べると、それほど目覚ましいものではないかもしれない。手厚い教育制度、安価で非常に優れた保育、そして、他の多くの国よりも文化的に浸透し、資源も豊富なジェンダー平等への全体的な社会的・経済的コミットメントによるものだろう。彼女が率いる内閣は、女性10人、男性9人で構成されている[18]。

Photo above: Sanna Marin in 2019, by Laura Kotila, Government office, licensed under CC BY-SA 4.0

ユース女性の政治参加における主な障壁は何か。

多くの研究から明らかなように、女性、特にユース女性や 過少評価されてきた女性たちは、政治家に立候補する際に多くの法的、経済的、社会文化的な障壁に直面する。そして、公式・非公式を問わず、政治指導者の立場にあるユース女性は、年齢とジェンダーを理由に抵抗を受ける。

- **主に欧米民主主義諸国において、女の子は男の子よりも正式な政治参加に関心が低く、社会運動関連の活動を好むという証拠[24]もある。**このように非公式な政治を好むということは、女の子やユース女性が最も重要であろう権力の回廊で政治的リーダーシップを発揮していないことを意味する。

- **多くの国では、ユース女性が政治家に立候補することが法的に禁止されている。**69%の国で、国会議員になるための法定最低年齢は最低投票年齢より高く[25]、政治は「若者が関与する事柄」ではないという暗黙のメッセージが将来的可能性をもつ候補者に送られている[26]。

- また、**女性は男性に比べて、自身が政治家になる資格があると考える傾向が弱く[27]、**競争的な環境を避ける傾向が強い[28]が、これは社会的なジェンダー規範によって形成された傾向であることが研究で示されている。

- 世界女性国会議員フォーラム(Women in Parliaments Global Forum)と世界銀行が2015年に84カ国で実施した調査によると、**女性は男性に比べて性差別を心配する傾向が3倍、男性と同等に相手にされないことを心配する傾向が2倍ある[29]。**

- 政治家、立候補者、その他政治的活動を行う女性に対する暴力やハラスメントは、世界中の多くの国で問題となっている[30]。**ジェンダーに基づく政治的暴力行為**は、通常、個々の女性に向けられるが、**政治への参加を検討する女の子や女性を抑止し、**女性が公的生活に参加すべきではないということを社会に伝えるなど、**意図した特定の対象を超えた影響も及ぼす[31]。**

- **年齢やジェンダーに関連する社会規範や差別的な考えは、女の子やユース女性が政治に参加する機会や、参加する人が直面する課題に影響を与える。**これらのうち最も重要なものの一つがエイジズム、より具体的にはアダルティズムで、一般的に年齢を理由に若者の意見や貢献を認めない傾向として現れる[32]。

アダルティズムはまた、政治的に活動する女の子を過度に賞賛し、「英雄的」または激励する存在として現れることもある33。マララ・ユスフザイ(Malala Yousafzai)とグレタ・トゥーンベリ(Greta Thunberg)はこの良い例で、米国の思春期の活動家に対する調査では、こうした賞賛は他の女の子に否定的に受け止められかねないことが示唆されている。ほとんどのユースは有意義な政治的参加をする能力がないことを暗に示していると解釈される[34]。

- **多くの社会では、政治は女性、ひいては女の子にとって不適切な活動であるという考え方が広まっている。**女性の政治参加に対する社会の態度は徐々に変化しているが[35]、この分野での進展は一様ではない。中東やアフリカを含む世界の一部の地域では、女の子は政治参加への大きな障壁に直面し続けている。例えば、政治的会合に出席する女の子やユース女性は、特にそのような会合が夜間に行われる場合、その道徳性を問われることがある[36]。また、米国の調査では、一般的に両親は男の子よりも女の子の移動に強い制御をかけており[37]、これは女の子の社会運動への参加能力を制限する可能性があることを示している[38]。

- **政治参加への関心やその欠如は、子どもの発達の早い段階で形成される。**家庭環境は、この政治的社会化の過程において最も重要な場と見なされることが多い。親の政治的態度が安定しており、家族での話し合いを通じて政治問題に頻繁に触れることで、成人前の意識と政治参加への長期的志向が著しく高まることが実証されている[39]。また、家庭内で、男の子やユース男性は女の子よりも、親から自分の進路の一つに政界があることを考慮し、社会活動に参加するよう促される傾向が強いという証拠もある[40]。

女の子とユース女性の政治参加パターン

調査によると、ユースは抗議行動やデモなど、正式な場ではない非制度的な経路を通じて政治に参加する傾向が強く、より個人的な政治活動の形態も多い[41]。

この非制度的な参加形態を好む傾向は、特に女の子やユース女性において顕著であるように思われる[42]。これは、制度的な経路を通じた参加には大きな障壁があることと、フォーマルではないアプローチを純粋に好むためである[43]。女の子は、フォーマルな政治活動を拒否する傾向にあるが、自分のコミュニティに強く関与し、コミュニティの問題解決に関心を持って、社会変革のアイデアに個人的に取り組んでいる[44]。主に欧米民主主義諸国の研究から、女の子と男の子の好む政治参加の形式は思春期に分岐し始めているといういくつかの証拠が存在する[45]。

国連で子どもの権利条約が採択されて以来、多くの国々がユース評議会やユース議会のようなユースのための参加型メカニズムを設立しており、参加型政策立案や参加型予算編成計画に子どもやユースを含めるよう模索してきた。これらの進歩によって、世界の多くの地域の女の子やユース女性が正式な政治プロセスに参加する機会が増している。多くの場合、ユース評議会は、ユースが地域レベルで政策や決断を形成することを可能にしている[46]。しかし、ユース議会は、しばしば民主的参加の場というよりも、市民教育を目的としている[47]。また、ユース議会やユース評議会の選考手続きは、多様なユースを含めることに苦労し、蔑視されたコミュニティが十分に代表されないことが示唆されている[48] [49]。

政治参加型の仕組みは、女の子やユース女性に公式な政治への道を提供することになる。しかし彼女たちの多くは、公式な構造の外側で政治活動を行い続けている。この制度的な政治構造の中で活動しないことが、彼女たちが公的な、社会運動の実行者や有能な政治指導者になる可能性を自ら狭めているとの主張もある[50]。女の子は、アウトサイダーかどうかに関わらず、公式な政治領域に参加する方法を学ぶことが依然として不可欠である。

オンライン活動

近年、ソーシャルメディアとインターネットの利用が急速に拡大したことは、政治参加の状況を変化させ、女の子やユース女性が政治に関与する方法を拡大する上で重要な役割を果たしてきた。コミュニケーションとネットワーキングの容易さ、個人の政治情報へのアクセスと露出は大幅に増加し、情報源は多様化し、「民主化」された[52]。ユースはオンライン空間への関与を深めながら成長しており、こうした変化が彼らの政治参加や幅広い関与に与える影響を理解することは、現在調査研究が大幅に進められている。

オンラインまたはデジタル活動は、非常に多様な行動を含んでいる：署名活動や政治代表者への連絡、コミュニティ・グループへの参加など、伝統的な参加形態の多くがオンラインに移行している。特にユースは、ソーシャルメディアを利用して政治的アイデンティティを確立し、ビデオやミームなどの創造的な形で政治的スタンスを表現し[53]、正式な政治制度の枠外で政治参加を再定義している[54]。フィジーの調査からわかるのはでは、年齢やジェンダーによって他の方法でのコミュニケーション能力が制限されている人びとにとって、オンライン参加のチャンネルは特に重要だということである[55]。また、トランスジェンダーの女の子や、LGBTIQ+コミュニティの一員であることを自認する女の子にとって、オンライン参加は特に価値のあるものだろう。

また、オンラインでの政治参加でさえも彼女たちは暴力にさらされている。女の子や女性の活動家は、オンラインで不当に攻撃されたり、「荒らし」に遭ったりしており、彼らを威嚇し、発言を阻止することを意図した性的な脅迫を受けることも頻繁に起きているている[56]。オンライン空間はまた、そして政府は、オンライン空間のが政治的活動を抑圧し、市民社会を制限するという手に出ている。これには、インターネットの遮断、ソーシャルメディアサイトの標的型ブロック、政治活動家の機密情報を収集するためのデジタル空間の使用などの戦略的な利用が含まれる[57]。

「このような政治機関への不平等な自己選択パターンが存在し、意思決定の独占権が政党や政治機関にある限り、政治代表のジェンダー平等を確立することは困難である」[51]。

女の子主導の組織

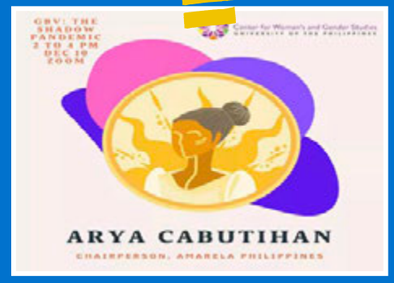
女の子とユース女性の公式な政治的チャンネル外での政治参加は、様々な形態の集団行動を通じてよく行われる。女の子とユース女性が先頭に立ち、多様で交差的、分散型のユース運動や草の根活動の増加を私たちは目にすることがある。既存の調査でも、女の子は独特な方法で組織化する傾向があることがわかる。女の子が主導する組織は、一般的に均等で上下階層のない構造を採用し、正式に登録される可能性は低い[60]。

気候変動運動「***Fridays for Future***（FFF未来のための金曜日）」は、女の子やユース女性が最もよく行っている政治参加や政治組織の形である。グレタ・トゥーンベリ（Greta Thunberg）の知名度にもかかわらず、FFFは正式なリーダーを持たない分散型の草の根運動であり続けている。FFFは、その非階層的な構造と、確立された政治制度の外側で活動するという点で、政治参加と組織化について制度化されていない様式を好むという女の子の明らかな傾向の一例になっている。しかし、FFFは、女の子たちが非制度的な政治参加様式を採用しても、伝統的な政治機関の行動に影響を与えたいという願望を排除するものではないという事実も実証している。

Young feminist organisations（YFO若年フェミニスト団体）の調査によると、女の子とユース女性はさまざまな問題をめぐって組織化されていることがわかった。地域によって違いはあるが、最も優先度の高い問題は、ジェンダーに基づく暴力、性と生殖に関する健康と権利、そして女性のための政治的・経済的エンパワーメントであった。同じ調査で、YFOは「正式な」政治的領域での変化を求めてキャンペーンを張る一方で、彼らが関心を寄せる問題についての活動は、個人の意識や社会的・文化的規範といった「非正式な領域」での変化をも求めていることも明らかになった[61]。

平等な力をもつ人びと

活動家



「私たちは、自身がより良くなるに値すると信じています。私たち以外に誰が（物事を）変え始めるというのでしょう。私たちが望む社会と今の社会をつなぐ架け橋になりたいのです[59]。」

フィリピン出身のアリヤ・カブティハン（Arya Cabutihan）は、性と生殖に関する健康と権利の情報をユースに提供するユース主導の動き「Amarela」の共同代表を務めている。15歳でAmarelaに参加し始め、ユースの活動を熱心に支持している。Facebookを拠点とするこのグループには、多様な性自認を持つ10代のボランティアチームがあり、交代で情報資料の作成、講演会の企画、14,000人を超えるフォロワーに向けたウェビナーの開催などを行っている。彼らの活動の中心は、医療文書内の生殖に関する健康に関する情報に焦点を絞りを、現地の言語を用いて図表に変換することである。政府が10代の妊娠への取り組みを優先すると宣言しているにもかかわらず、毎日推定500人の10代の若者が出産しており58、セックスについて語ることは依然として非常にタブー視されている。Amarelaとそのスタッフは、頻繁に脅迫を受けている。

©Amarela

女の子やユース女性の政治参加の権利は、国際法ー子どもの権利条約（CRC）や女子差別撤廃条約（CEDAW）、持続可能な開発目標などの国際協定に明記されている。

どのような法律であれ、さまざまな個人や組織が実施した調査研究から、その権利のを保護を目的とする女の子やユース女性の日常生活において、これらの法律や協定の効果が十分に感じられないことは明らかである。

私たちが学んだこと

プランが2007年から長きにわたり実施している研究「現実の選択、現実の生活（Real Choices, Real Lives）」の参加者と、ユース女性活動家の2グループ行った、調査および質的インタビューから得られた主な結果をまとめた。

1. 女の子やユース女性にとって、政治という言葉はどのような意味を持つか

2. 女の子やユース女性が最も関心を寄せる政治問題は何か

3. 女の子やユース女性は、現在の政治的リーダーシップをどのように評価しているか。自分たちを代弁していると思うか、自分たちの意見を反映していると思うか、誠実であると思うか。

4. あなたの国やコミュニティでは、女性は政治的リーダーになれるか、またそれがどのように考えられているか

5. なぜ女の子やユース女性の政治参加が重要なのか、どのような参加を指しているのか

6. 女の子やユース女性の政治参加を妨げるもの、あるいは後押しするものは何か

7. 今後の展望–首相、活動家、または有権者。女の子とユース女性は政治の世界で自身の将来をどう考えているか。

1.

女の子やユース女性にとって、政治という言葉はどのような意味を持つか



©Plan International

女の子やユース女性が政治をどのように考えているかを理解し、その後の研究結果の枠組みを提供するため、両方の質的インタビューの参加者に「政治という言葉から何を連想しますか？」という自由な回答を促す質問を行った。政治参加の状況や経験にかかわらず、圧倒的に回答者は政治という言葉をフォーマルな政治活動範囲と結びつけており、その多くが、特に活動家グループでは、否定的な言葉であった。

「Real Choices, Real Lives (RCRL)」に参加する女の子62の中で、この質問に回答できると感じた女の子は、大体が政治は国の総裁や閣僚、市長などの政治指導者や統治と関連づけており、しばしば中立的な言葉で語られた。エルサルバドル、ベナン、フィリピン、そしてトーゴでは、女の子たちが政治を語る場合、選挙や投票、選挙期間中に自宅やコミュニティを訪問した候補者についてであった。ベトナム、ベナン、そしてトーゴの参加者にとって、政治は社会やコミュニティの統治や管理であったが、ただ一人、政治を解釈する際に民主主義に言及し、政党を「平和」と結びつけている女の子がいた。

「卑見ですが、政治とは民主主義で、政党は平和の文化です。」

Fezire、16歳、RCRL、トーゴ

ベルギー、マラウイ、そしてドイツの活動家は、政治を権力の行使と結びつけて考えていた：

「私はいつも、政治とは、より大きな集団に関する決定権を誰が持っているか、そしてその力をどのように与えるかということだと考えています。民主主義では投票でこれを決めますが、私はとてもいいと思います。ですが、その投票システムに参加できるのは誰でしょうか。私にとって、これは権力構造の問題なのです。」

Anna、23歳、ドイツ

エルサルバドル、ブラジル、そしてフィリピンの「Real Choices, Real Lives」参加者は政治と汚職を結びつけて考えることが多かった。

「彼らは票と引き換えにお金を配る。要するに票の買収です。」

Reyna、15歳、RCRL、フィリピン

「その単語を聞いたとき、まず頭に浮かぶのは窃盗です。なぜなら、私たちの代表として選ばれた人たちは皆、最終的に税金を盗むのです。」

Bianca、16歳、RCRL、ブラジル

しかし、一部の女の子やユース女性の中には政治に肯定的な印象を抱いている例も認められた。

「政治や政策や方針は、常に人々の生活に関わる決定をしているように感じます…同時に、私はそれらから正義、公正、権利を連想します。政治は、社会がより公正で公平になるための手段のようなものだとも感じているからです。」

Aurora、20歳、エクアドル

結果としてこの質問に対する回答から、政治を比較的狭く定義していることが明らかになった。このことは、女の子やユース女性が、自分たちが参加可能な政治の正しい範囲を理解していいないことを意味し、結果的に、正式な政治的役職に就いているような特定の政治的リーダー、だけを想像して質問に答えざるを得なかった可能性がある。そして、それらは主に、若者でも女性でもない。

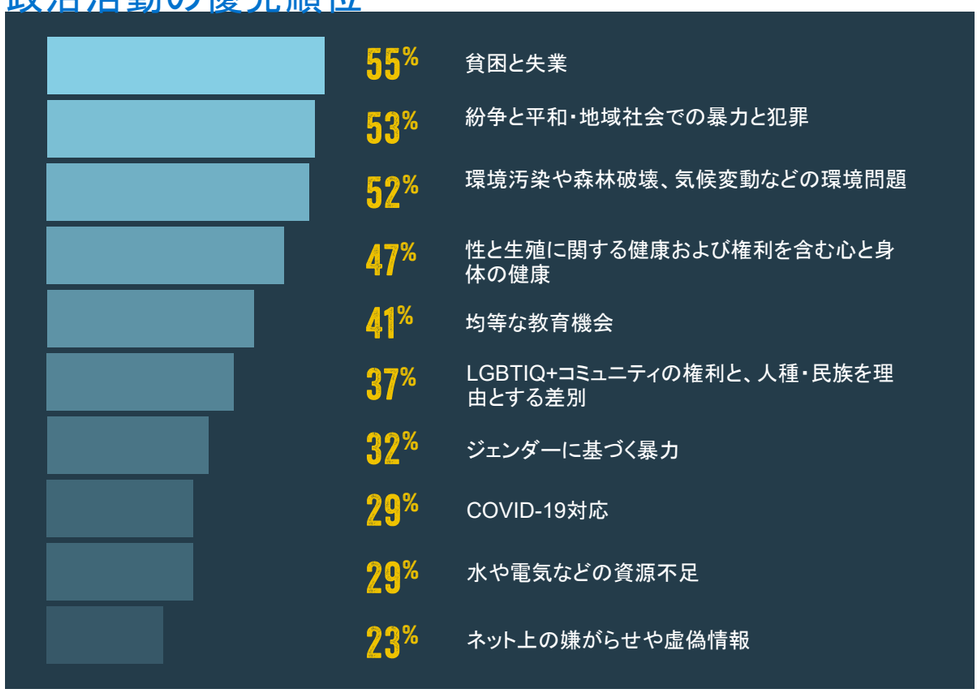
2.

女の子やユース女性が最も関心を寄せる政治問題は何か

女の子やユース女性がどのような政治的問題に最も関心を抱いているかを理解するため、2つのインタビューグループと調査参加者に対して、で優先すべきだと考えている政治問題について尋ねた。3つのグループ全体で多様な問題が挙げられたが、中でも **貧困と失業問題は明確に優先課題と認識され、環境問題や暴力と紛争に関する懸念も同様であった。**活動家の間においては、ジェンダーの平等や、政治システムの機能、そして市民的・政治的な権利と自由の欠如に関する幅広い懸念も多くが言及した。

調査参加者は、15の政治活動項目の中から、優先すべきと考える5つを選択し、中でも貧困と失業、紛争と平和・地域社会での暴力と犯罪、環境汚染と気候変動を含む環境問題、性と生殖に関する健康と権利を含む心と体の健康、均等な教育機会の確保が上位に挙がっている。

政治活動の優先順位

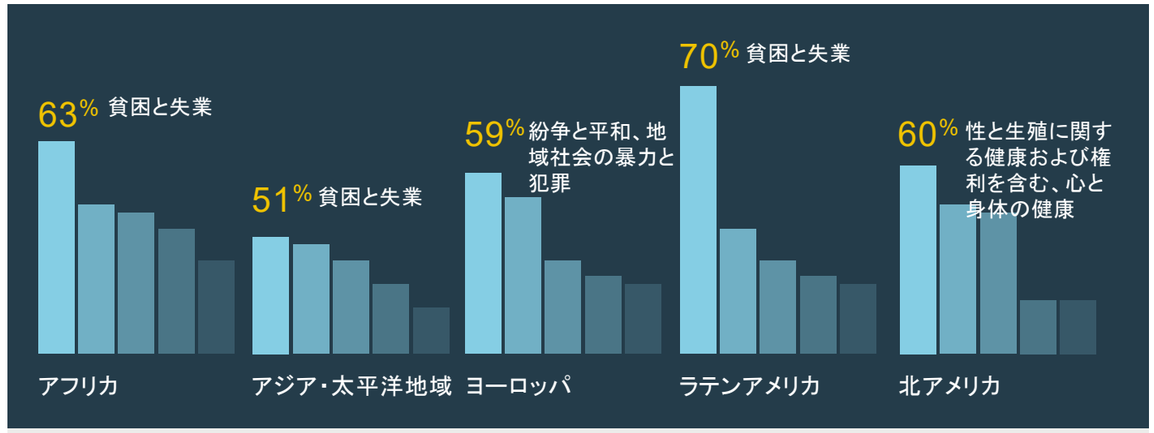


政治活動の優先順位は、場所と国の所得によって大きく異なっている。アフリカ、アジア太平洋地域、ラテンアメリカでは、調査回答者の70%が貧困と失業が最優先事項と回答している。『*Real Choices, Real Lives* 』研究に参加する女の子たちへのインタビューでも、この調査結果を裏付けており、ドミニカ共和国、トーゴ、エルサルバドルでは、ユースの失業が重要課題として挙げられていた。

北アメリカとヨーロッパでは、心と身体の健康と、平和と紛争がそれぞれ優先事項として挙げられた。

アフリカ地域で50%を占めている資源不足への懸念は、北アメリカ、アジア太平洋地域、ヨーロッパでは約20%と低くなっている。予想される通り、所得水準が低い国では、資源不足が一貫して優先事項の上位5項目に入っている。環境問題は全地域で約50%が優先すべきと回答しており、また、均等な教育機会はアフリカとラテンアメリカで特に重視された事項だ。

地域ごとの政治活動の優先順位



アフリカ

55% 教育へのアクセス
54% 紛争と平和、地域社会での暴力と犯罪
52% 環境汚染や森林破壊、気候変動などの環境問題
50% 水や電気などの資源不足

アジア・太平洋地域

50% 紛争と平和、地域社会での暴力と犯罪
48% 環境汚染や森林破壊、気候変動などの環境問題
45% 性と生殖に関する健康および権利を含む、心と身体の健康
37% COVID-19対応

ヨーロッパ

56% 環境汚染や森林破壊、気候変動などの環境問題
48% 貧困と失業
46% 性と生殖に関する健康および権利を含む、心と身体の健康
46% LGBTIQ+コミュニティの権利と、人種・民族を理由とする差別

ラテンアメリカ

55% 均等な教育機会
52% 紛争と平和、地域社会での暴力と犯罪
48% 環境汚染や森林破壊、気候変動などの環境問題
46% 性と生殖に関する健康および権利を含む、心と身体の健康

北アメリカ

55% LGBTIQ+コミュニティの権利と、人種・民族を理由とする差別
54% 環境汚染や森林破壊、気候変動などの環境問題
43% 貧困・失業
43% 紛争・平和、地域社会での暴力・犯罪



「女の子がどうやって学校に戻ることができるのかを考えましょう。同時に、そのプロセスの途中でCOVID-19パンデミックが起こり、妊娠した女の子たちがいたことも忘れてはいけません。そのような女の子も学校に戻り、夢やキャリアを追い求めるためにはどうしたらいいでしょうか。」

Rainbow、22歳、ウガンダ

教育、特に女の子の教育は、活動家へのインタビューの中で最もよく言及された優先事項であり、このグループの女の子とユース女性のほぼ半数が言及していた。トーゴ、ウガンダ、ペルーの活動家は、早期妊娠の割合を増加させたCOVID-19流行時の学校閉鎖が、教育におけるジェンダー格差を広げているのではないかという懸念を示した。女の子や女性に対する暴力に関する問題は、両方のインタビューセットで言及された。調査では、アフリカとラテンアメリカでのジェンダーに基づく暴力は、他の地域よりも優先度が高い事項だと明らかになった。「Real Choices, Real Lives」に参加した女の子たちにおいては、ラテンアメリカとカリブ海諸国、そしてベトナムとベナンの女の子たちの一部で、コミュニティにおける安全性の欠如が特に懸念されていた。

「私たち、女の子や女性が直面する危険。夜、街に出ると、安心が保証されないから怖い。外には悪い人たちがたくさんいて、私たちは大きな不安を感じます…何かが起こるのではないかと…もしかしたらレイプされるのではないかと… 。」

Bianca、16歳、RCRL、ブラジル

住む地域と収入も、選択された優先順位に大きな影響をおよぼしているが、回答は他の点でも分かれていた。

様々なマイノリティグループに属する人びとのアンケート回答は、互いに類似点が見られ、一般的な人々の回答とは異なっていた。例えばLGBTIQ+として認識される人びとは、差別やLGBTIQ+の権利、精神的・身体的な健康について特に懸念している。障害を持つとされる人びとの60%は、精神的・身体的健康について最も懸念しており、これは他のマイノリティグループにとっても優先すべきと回答された問題である。しかし、このような違いはあっても、環境、暴力と紛争、貧困と失業に関する懸念は、すべてのグループにおいて、依然として最も重要という結果であった。

*「Real Choices, Real Lives」*参加者へのインタビューでは、多くの人が汚染や気候変動が農業や食糧に与える影響への懸念を挙げた。水不足や、場合によっては洪水が作物に影響を及ぼし、物価は上昇傾向にある。食費だけでなく、燃料やその他の生活必需品も値上がりする中、経済的な問題により家族が苦労するのを女の子たちは目の当たりにしてきた。これによる彼女たちの教育機会への影響も見て取れ、また、人びとの精神的な健康も心配された。

「毎年、物価は上昇し、人々は請求書や借金など、より多くのストレスを抱えているようです。」

Juliana、16歳、RCRL、ブラジル

いずれのインタビューグループでも、政治活動に対する女の子たちの優先順位は、日常生活に基づいている。彼女たちは、作物が不作になり、食料価格が上昇し、家族が日々の出費に苦しんでいるのを目の当たりにしている。彼女たちは健康、教育、戦争と暴力について心配しており、その不安は、貧困と暴力が特に女の子やユース女性である彼女たちに与える影響によって増大している。彼女たちには、より良い未来を想像することが難しい。活動家の多くは、政治的な意思決定過程における女の子やユース女性の有意義な参加の欠如と、政治的指導者に女性が少ないことを強調した。彼女たちにとってのより良い未来とは、政治的・社会的な変化、つまり女の子やユース女性が平等であると認められ、有能さを認識されることなのだ。

「…この国会には、女性として、ユースとしての権利を理解している、自立した女性が必要です。でも、そのような女性が国会議員になることを望んでいない人がいることが、私たちの障壁だと思います…そして、若い人たちに自身の権利についてもっと考えてもらい、意見を表明してもらうことが必要です。私たちが自分の意見を表明し、自身の権利をよく知るようになれば、変化を起こし、私たちが望むものを手に入れる新しい世代が生まれるでしょう。」

Jen、23歳、レバノン

平等な力をもつ人びと

環境活動家・副大統領

「私たちの政府は、正義と平和の実現において、国民を裏切ってきました。彼らがきちんと仕事をしていれば、私はここにいる必要はありませんでしたした[63]。」

フランシア・エレナ・マルケス・ミナ（Francia Elena Márquez Mina）は、コロンビアの人権・環境活動家であり、弁護士であり、コロンビアの副大統領である。ダム建設によって自分の住むコミュニティが脅かされたことをきっかけに、彼女は13歳にして活動家となった。2018年、マルケスは80人の女性とともに首都ボゴタまでの560キロ（350マイル）をトレッキングする抗議行進を主導し、彼女らのコミュニティから違法採掘者を排除するよう要求した。金の違法採掘を阻止したこれらの活動が評価され、彼女はゴールドマン環境賞を受賞した。コロンビアのナショナル・ラーニング・サービスを卒業した農業技術者であり、2020年にサンティアゴ・デ・カリ大学で法律の学位を取得。また、2児のシングルマザーで、16歳の時に第1子を妊娠し、メイドとして働いて生活費を稼いでいた。

写真：Francia Márquéz The Left, ライセンス：CC BY-SA 2.0

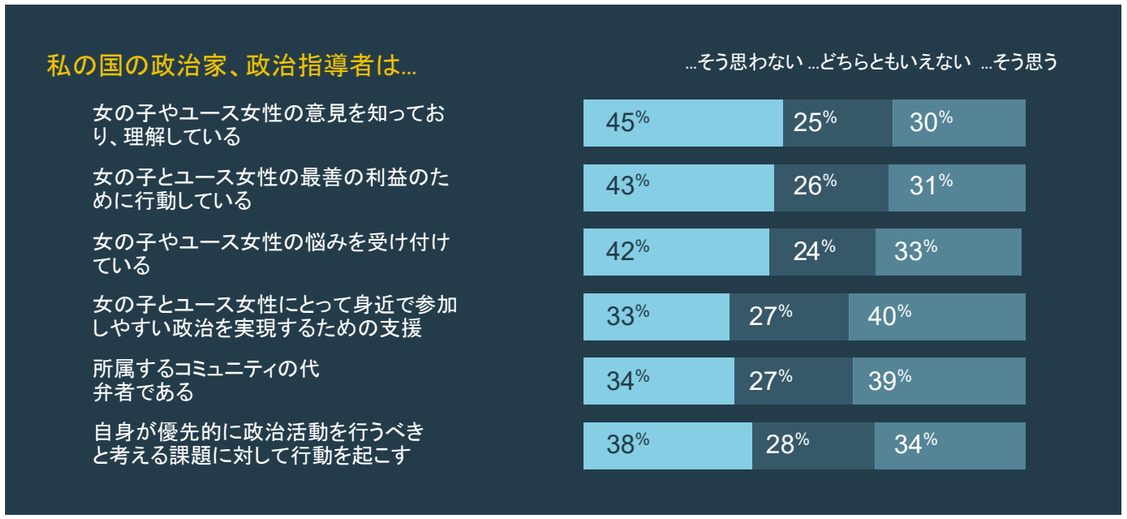
3.

女の子やユース女性は、現在の政治的リーダーシップについてどのように評価しているか。自分たちを代弁していると思うか、自分たちの意見を反映していると思うか、誠実であると思うか。

「当選するための票が欲しいだけで、人々が彼らを必要としていることを考慮していない人がいます…自分のことしか考えていないのです…若者のことなど忘れています。彼らは人々を助けず、彼らにとって最も都合の良い人だけを助けるのです。」

Sharina、16歳、RCRL、ドミニカ共和国

政治家や政治指導者に対する認識



調査結果は全体として、女の子とユース女性が政治指導者について様々な意見を持っていることを示しており、明らかになった点は以下の通りである。回答者の40%が、政治家は女の子の政治参加を支援していると考えているのに対し、33%はそう思わないと回答している。また、43%が政治家は女の子とユース女性の最善の利益のために行動していないと感じているのに対し、31%は行動していると考えている。

地域によっても顕著な違いが見られ、ラテンアメリカの女の子はアジアの女の子よりも指導者に対してかなり否定的であり、アフリカの回答者は指導者の決定が原因で政治に全く関わらなくなったと答える傾向が強かった。

また、LGBTIQ+を自認する女の子やユース女性、そしてマイノリティに所属する人々は、より否定的な意見を持っていることが判明した。

LGBTIQ+を自認する回答者の59%が、政治家は女の子やユース女性の意見を理解していないと回答している。

世界的に見ても、自分にとって重要な問題に対して政治家は行動を起こしていると思う人は3人に1人しかおらず、その結果、半数以上の人々は政治家への信頼を失っている。

調査参加者のうち、自分が関心を持っている問題についてのリーダーの決断に概ね満足していると答えたのは、わずか11%であった。

政治家の決断や行動によって、どのような気持ちになったかを尋ねたところ、回答者の62%が悲しさ、ストレス、心配、不安、危険を感じたと回答している。

これだけは言いたい：女の子たちの声

インタビューでは、回答は一様ではなかったが、共通するテーマとして、政治指導者の公約がしばしば行動に移されないという不満が存在した。

「私には、多くのことが、上辺だけの話のように感じられます。なぜなら、政治の世界では、話すことは多いのに、行動に移すことや約束を守ること、言葉の後に行動が伴うことは少ないと感じるからです。」

Juliette、21歳、ベルギー

政治家が住民たちとの約束を守らないという不満は繰り返し聞かれ、何人かの参加者は、特にユースに関する公約はその指導者が選ばれた後に実現しないことが多い、と指摘した。

「政治家は、選挙期間中は問題を提起するんです。でも、ひとたび役職に就くと、ユースのことは忘れてしまうんです。」

Unique、23歳、南スーダン

*「Real Choices, Real Lives」*参加者へのインタビューは、全体的に政治家についての意見は、彼らが地元で何をしているかに大きく依拠していた。ベナン、トーゴ、ベトナムでは肯定的な意見が多く、女の子たちは具体的な利益を挙げている。

「彼ら（政治指導者や代表者）は、COVID-19感染に配慮した学習方法を進めてくれるし、私たちが学校に行けるように学校を建ててくれるんです。」

Lelem、16歳、RCRL、トーゴ

しかし、ブラジル、フィリピン、エルサルバドル、ドミニカ共和国ではより否定的であり、自分たちの状況に対して政治指導者は助けるための十分な働きをしておらず、重要なのは実際に行動をしているか、またはしていないかであると一般的に感じているようであった。

「特に雨季の間は悪路や土砂のため、多くの生徒が途中で学校を辞め てしまう。」

Christine、16歳、RCRL、フィリピン

地元コミュニティへの関心と、女の子やユース女性が地元での活動を望む傾向は、研究全体のテーマである。女の子やユース女性は、日々目の当たりにする現実を基に変化を求めることができ、またそうするため、これはまさに政治参加への道なのである。

彼らの多くが表明する政治家への不満は、自らの政治参加に繋がっていくだろうか。

4.

あなたの国やコミュニティでは、女性は政治的リーダーになれるか、またどう考えられているか



「女性リーダーは過小評価されています。多くの人が、自分には無理だろうと思っています。それが私の思う課題です。」

Darna、16歳、フィリピン

©Plan International

女性、特にユース女性は、政治的リーダーになるのに多くのジェンダー障壁に直面することを示す十分な証拠がある。この差別を女の子たちがどう見ているか、またその影響を理解するために、女の子やユース女性の政治参加における周りの態度について、様々な質問をした：待遇はどうか、指導的立場にあるか、、そしてユース女性のリーダーシップは、彼女たちが暮らすコミュニティでどのように受け入れられているか。

調査回答者のうち、女の子やユース女性が政治的リーダーになることが容認されると考えている人は、わずか半数であった。

調査した女の子の10人に1人は、女性は政治的リーダーになる資格がないと考えている。

調査回答者の40%が、女性政治家は誹謗中傷や脅迫を受けたり、見た目や服装で判断されていると思うと回答した 。

また、政治的リーダーシップをめぐるジェンダー規範や年齢規範に対する女の子の認識は、マイノリティグループ間では一貫しているが、地域によって異なることが調査回答から明らかになった。地域別の結果は単純ではない。アフリカの回答者は、女の子やユース女性の政治的リーダーシップは受け入れられると答えているが、それでも他の地域よりもずっと多くの回答者が、女性にはリーダーシップをとる資格がないと考えているのである。特にアフリカの女の子やユース女性が回答した女性政治家への誹謗中傷や蔑視という点が、女性のリーダーシップに対する全体的な自信を損ねている可能性がある。

- アフリカの回答者の80%近くが、女の子やユース女性が様々なレベルで政治的リーダーになることは容認されていると回答している。
- 一方、他の地域における女の子やユース女性の回答は、34%から57%と、かなり低い。
- アフリカの回答者の22%が女の子やユース女性にはリーダーの資質がない、と回答したのに対し、他の全地域の回答者は平均6%であった。
- アフリカの回答者は、女性政治家が脅迫や誹謗中朝にさらされ、見た目や服装で判断されると最も多く報告している。
- 農村部の回答者は、都市部の回答者と比べて女性がリーダーになることが容認されている、と回答する傾向がある。

平等な力をもつ人びと

フェミニスト起業家たち



フェミニスト起業家たち
「ナイジェリアは家父長制の強い社会であり、しばしば女性は沈黙を押し付けられ、若者は二流市民として扱われます。私たちは皆、重要な存在であり、年齢やその他の差別的要因に関係なく、人間としての尊厳と敬意をもって扱われるに値するのです[65]。」

ダミロラ・オドゥフワ（Damilola Odufuwa）とオドゥナヨ・エウェンリ（Odunayo Eweniyi）は、ナイジェリア出身の優秀なIT起業家であり、若いフェミニストリーダーである。2020年、彼女たちはさまざまな立場の献身的な女性たちとともに、女性の権利と安全、経済的自立、そして政治参加に焦点を当てた「フェミニスト連合」を設立した。ナイジェリアは学校に通っていない女の子の数が世界で最も多く、アフリカで最も女性議員の割合が低い国の一つで、世界でみても193カ国中181位である[64]。
彼女たちは、教育、経済的自立、公職への起用に重点を置き、ナイジェリア社会における女性の平等の実現を使命としている。彼女たちの連合は最初の活動として、特別強盗対策部隊 の解散と警察の残虐行為の終結を求める2020年の#EndSARS抗議運動を支援した。この活動は、誹謗中傷や嫌がらせの的になり、家族や友人を大変不安にした。連合では、指導的役割における女性の代表性の向上、公正な賃金、そして女性と女の子を妨げている多くの障壁を明らかにし、取り払わなければならないことを社会全体で認識することを要求している。

写真左：Damilola Odufuwa　Aisha Ife　右：Gazmadu Studios



これだけは言いたい：女の子たちの声

質的なインタビューにおいて、女の子たちは、リーダーシップの概念が、しばしば気が付かないような複雑な方法で、いかに性別に左右されているかについて説明した。

「でも、女性として気づいたのは、私自身や友人、一緒に働く人たちは、政治的な議論に参加するための段階が、男性や男の子とはまったく違うということです。男性や男の子は、もともとそういう場にいることが奨励されているのに対し、女性は 、その場が自分のために作られていないと感じるのです。」

Anna、23歳、ドイツ

政治的指導者の地位にある女性を見たことがあるかという質問に対しては、「*Real Choices, Real Lives* 」に参加する女の子のほとんどが、特にコミュニティレベルでの例を挙げることができ、活動家の中にも女性指導者の例を挙げる人が何人かいた。

「ジェンダー平等とは思いませんが、今は昔より女性の数は多く、増えていると思います。」

Juliette、21歳、ベルギー

しかし、多くの活動家は、あらゆるレベルにおいて政治的リーダーシップに根強いジェンダーギャップを感じていた。レバノン、南スーダン、ヨルダン、マラウイのユース女性たちは皆、国家レベル、特に議会での女性の代表が少ないことを懸念していた。

「ほとんどの政治的地位は男性が占めていて、女性は統治するポストにほとんどいません。」

Unique、23歳、南スーダン

ベニン、ブラジル、フィリピン、ベトナムで「*Real Choices, Real Lives*」に参加した女の子たちからの回答でも、政治的リーダーシップにおけるジェンダーギャップを明確に読み取れた。政治的役割を担う女性がいたとしても、それは例外であることが多く、例えば男性で構成される地方議会で唯一の女性であると女の子たちは指摘した。ブラジルでは、何人かの女の子が、政治的指導者の地位に女性がいたとしても、それは大抵白人であると指摘した[66]。

「黒人女性が代表なのはほとんどない。」

Natalia、15歳、RCRL、ブラジル

活動家の中には、調査の結果を基に、政治的指導者の立場にある女性が直面する課題や脅迫を強調する人もいた。

「2019年に、ある政党を支持していることを公言しただけで、女性2人が服を脱がされるという事件がありました。対抗する政党によるもので『お前ら女は公言するな』と怒ったのです。」

Zoe、23歳、マラウイ

どちらのインタビューグループのあらゆる質問において、女の子やユース女性は、リーダーシップの概念がいかに性別に左右されており、また女性リーダーに求められるものがいかに男性のそれとは異なるかを強く意識していた。

「私たちは皆、彼女は女性なのに、と心の中で思ってしまいます。彼女は政治に何を求めているのだろうかと。女性の能力は過小評価されることが多いです...私たちは、彼女には能力があり、影響力があり、周りを巻き込む力があるとは思いません。私たちは心のどこかで...多分、男性が彼女を援助しているからそこにいる...と思っています...まるで女性は何もできない弱い生き物のようにです。本当に難しいんです。特にこの分野では、女性は奨励されていないのです。」

Naturel、16歳、トーゴ

フィリピンとベトナムの「*Real Choices, Real Lives*」参加者の女の子の回答からは、女性リーダーは肯定的にとらえられているものの、男性に比べて女性リーダーに求められる資質には明確な違いがあることが明らかになった。女性リーダーは、勇敢であり、優しくて親しみやすいと描写される。

「貧しい人々を助けたいという心を持っているので優しく、信念を持ってリードする能力を持っているので勇敢です。私のような女の子には、ここのユースの見本となり、勇気を持つことです。」

Jasmine、15歳、RCRL、フィリピン

対照的に、男性のリーダーは、強く、争いを解決でき、物事を成し遂げる総合的な能力があるとよく描写される。女性の立ち位置や能力に対するジェンダー規範は、あらゆる場面で女性や女の子の足を引っ張っている：特に、女の子やユース女性自身がそのような期待とともに育ってきたことによる。

「何世代にもわたって、私たちはこのイメージを植え付けられてきました...目を閉じて政治家を想像しろと言われたら...私は間違いなくネクタイを締めた男性を思い浮かべるでしょう、それが私たちに与えられたイメージだからです... 女性やユース女性はすぐに浮かびません。だから、女性、それもユース女性がこのような場にいることを信じるのは難しいのです。これは、世代から世代へと引き継がれてきた一種の行動なのです。」

Aurora、20歳、エクアドル

進展の兆しもある：ある状況では、時間の経過とともに見解が変化しているということを、女の子やユース女性たちは見てきた。

「一世代前では...女性は性的対象であり 家のモノとみられていました。 女性は家にいて掃除やその他のことや育児をし、男性は仕事をする、と。しかし今、旧世代は、すべてのユースがインターネットを利用している時代の真っ只中にいることを理解しなければなりません。」

Valentina、19歳、ペルー

しかし、調査によると、道のりはまだまだ長いようだ：リーダーシップは、いまだに男性のイメージで構成されている。女性リーダーたちはまともに相手にされず、権力を握ると男性の同僚よりも厳しく評価されるのだ。

「男性リーダーと女性リーダーが同じ失敗をしたら、女性リーダーの方がより非難されます。」

Hang、15歳、RCRL、ベトナム

5.

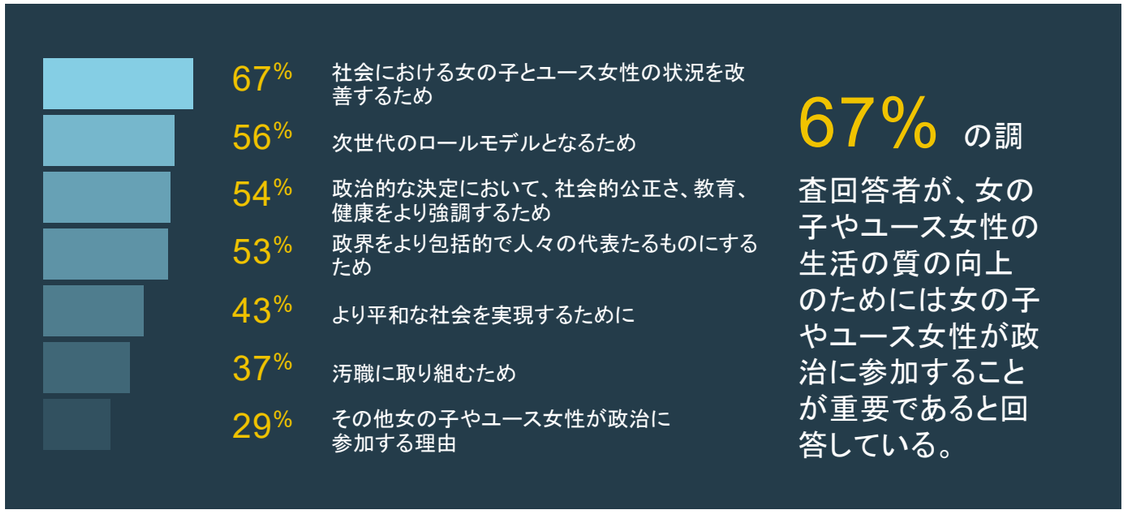
なぜ女の子やユース女性の政治参加が重要なのか、どのような参加を指しているのか

女の子やユース女性が政治に参加すべきだという意見には、圧倒的に賛同された。その理由はさまざまであり、その実現方法もさまざまであった。

女の子やユース女性が政治に参加することは、次世代へのロールモデルとして重要であると考えるのはどこでも同じであった。アフリカと北アメリカの回答者は特にこの点を重視し、ラテンアメリカの回答者は政界をより包括的なものにすることを重視していた。低所得国では、ユース女性の参加は、汚職への取り組み、平和の促進と社会的公正さを重視において特に重要であると回答者は考えている。

マイノリティグループやLGBTIQ+の回答者は、予想されたように、政界をより包括的で人々の代表たるものにすることの重要性を強調した。

女の子やユース女性が政治に参加することが重要なのはなぜか？



残る疑問は-女の子やユース女性の政治参加はどのような形を取っているかということだ。積極的なのか、頻繁なのか、地域的なのか、国家的なのか。

また、調査回答者の97%が参加することは重要だと考えているが、実際に何人が何らかの形で参加しているのだろうか。

83% の調査対象の女の子とユース女性が、政治に参加したり関与したりした経験がある。

また、ユースは非公式な経路で政治に参加する傾向が強いという仮定に反して、正式な政治参加の形式、特に投票が非公式な活動よりも一般的であることも、この調査の結果から明らかになった。政治に参加する方法としては、投票が最も一般的で、選挙に立候補することが最も少なかったが、かなりの少数派がそれを検討するとしている。

24% の政治活動に熱心な調査回答者は、政治家になる用意があると回答している。

女の子やユース女性の政治活動には、伝統的なメディアとソーシャルメディアの両方を使った様々なプラットフォームでの政治的討論への参加やフォロー、学校での討論グループへの参加、キャンペーン活動、地域コミュニティの活動家協会や他の社会グループへの参加なども含まれた。

63% の女の子とユース女性は何かしらのグループや団体に所属している。

- アフリカ地域の女の子やユース女性は、最も政治活動に関与している。
- 社会グループ、有志コミュニティグループ、フェミニスト・女の子・ユース女性グループの会員数は、他の地域と比べてアフリカが著しく多い。
- 全体として、参加率は低所得国で最も高く、国の所得が増加するにつれて平均的に減少するようである。
- LGBTIQ+、障害者、そしてマイノリティグループに所属する参加者は、全体的に、オンライングループや社会運動に参加し、オンラインまたは直接署名を行ったと答える傾向が強い。
- マイノリティであると自認する人は、フェミニストの団体や協会に所属し、自身が関心を持つ問題についてキャンペーンを行う傾向がある。
- 地方に住む回答者は、投票した、あるいは投票するよう他人に働きかけたと報告する割合が全体的に高い。

平等な力をもつ人びと

学生活動家



「私抜きで行われた決定は、私に反対するものです…世界中の女の子たちは、自身の権利のために団結して戦わなければなりません。」

25歳のセネガル人学生カディジャ（Khadija）は、プロジェクト・マネジメント・コースの2年生である。彼女は「Backa Sister create network」の代表を務める-プラン・セネガルによって設立されたこのプロジェクトでは、演劇、音楽、そして芸術を用いて女の子の権利キャンペーンを行い、女の子の声がコミュニティに反映されるようにする活動を行っている。彼女は幼い頃から地域で活動しており、女の子やユース女性の利益を促進し、彼らが無視されないようにするために地元の政治家に働きかけている。彼女にとって、自分たちの生活に影響を与える決定に女の子が参加することは非常に重要だ。「私抜きで行われた決定は、私に反対するものです」。彼女は早期妊娠などの重要な問題に対する意識を高めるためのキャンペーンを行っている。「思春期の女の子は情報を必要としており、両親やコミュニティの人びとも同様に必要としています。」「Backa Sister create network」では、演劇、歌、芸術を通して情報を得ることができる。「世界中の女の子たちは、自身の権利のために団結して戦わなければなりません」と彼女は言う。そして、彼女と彼女の団体が示すように、彼女たちは手に入るあらゆる手段を使わなければならないのである。

写真：Khadija



これだけは言いたい：女の子たちの声

女の子の権利のためのプランの活動に以前から関わってきた活動家と、*「Real Choices, Real Lives」*参加者の女の子たちとの間では、政治参加の経験は、予想された通り、大きく異なるものであった。活動家の多くは、コミュニティレベルから国内、更には国際的な場まで、公式・非公式両方の政治領域にまたがる複数の活動への関与を述べている。

一方、*「Real Choices, Real Lives」*に参加した女の子は、政治参加の経験はほとんどなく、調査対象国の多くで、正式な政治プロセスに参加した経験がある人はごくわずかであった。しかし、調査結果にもあるように、彼女たちの多くは、オンラインで政治問題について読んだり、ニュースで政治的議論をフォローするなどの活動を報告しており、このことは、たとえ関心が行動に結びついていないとしても、彼女たちの多くが政治や政治参加に関心を持っていることを示唆している。

「私の国で何が起こっているのか、大統領選の有力候補は誰かという政治問題、COVID-19の状況はどうか、台風が来ているかどうかの天気予報、そしてロシアとウクライナの戦争はどうなっているのかなどを（オンラインで）見ていました。」

Chesa、16歳、RCRL、フィリピン

ベトナムでは、多くの人が地元のユースユニオンを通じて、コミュニティレベルの活動に参加していると報告した。Hangは、ユースユニオンの書記を務めており、少数民族の女の子のための能力開発とアドボカシー活動を行う地元のスクールガールクラブの幹部でもある。

「クラブに参加することで、一般的な女性と女の子、特に少数民族の女の子の権利についてより深く学ぶことができます。通常、私のクラブでは、学校の他の学生や家族、村やコミューンに広め、女性と女の子の権利強化の問題を議論する会議を開いています。」

Hang、15歳、RCRL、ベトナム

ブラジルのJulianaは、*「Real Choices, Real Lives」*に参加した人の中で唯一、政治的抗議行動に参加したことがあり、目的を達成した学生によるクラス・ストライキについて説明した：

「私たちは、先生がいなかったので、とてもとても早く教室を離れました。それは...水もおやつもトイレも、何もかもが不足しているためでした。そのため、私たちは抗議行動を起こし、先生の一人である科学の先生のところへ行き、助けてもらいました。それを見た校長先生は怒って、何かしようと思ってくれたのです。時が経つにつれ、状況は良くなっていきました。」

Juliana、15歳、RCRL、ブラジル

インタビューに答えてくれた活動家は、ジェンダー平等と女の子の権利のためのキャンペーンを行い、コミュニティにおける社会規範の変化の促進に携わっている。その多くは、特に女性と女の子に対する暴力の撲滅に注力している。その他の課題としては、早期妊娠・出産、強制された早すぎる結婚、女の子の教育、女の子と女性の政治参加などがある。また、自身が望む変化をもたらすためには、正式な政治的プロセスに参加することが重要であることも認識している。

「私は "ユース諮問委員会の長 "という肩書きを持っています... 私たちに影響を与えるような政府による政策やプロジェクトがあると、私たちはそれについて助言をします。その提案を読み、何が障壁になるのか、何が制限になるのか、それはすべての人をサポートするか、また、コミュニティの誰かを傷つけないか、などを確認するのです。」

Janell、24歳、ベトナム

活動家に聞いた、効果的な参加方法

投票に対する考え方は概ね肯定的であったが、中には代表者の選択肢の狭さや政治の腐敗を理由に敬遠する人もいた。

「投票は、政治に触れるという意味で、とても重要だと感じています。いつでも、どんな時でも、意識して投票することで、誰のために投票しているのか、その人たちは自身の関心や家族、社会に応えてくれるのかがわかるからです。」

Aurora、20歳、エクアドル

活動家の中には、例えば諮問グループやユース協議会を通した公式な政治参加は、形だけのものになりかねないと感じている者もいた。女の子やユース女性は必ずしも伝統的な政治参加に慣れ親しんでおらず、社会運動は効果的で、より伝統的な政治を補完するものとしてしばしば考えられていた。組織化、意識向上、政治的意見の表明などの独創的な活動としては、祭典の開催、映画や演劇、公演の利用、ラジオドラマの制作などが、キャンペーン戦略として挙げられた。

「政治に参加する方法や、その場に立つための方法は、今までも非常に形式化された方法があります。しかしそれらの方法のほとんどは、女性が参加することを前提としていません…そのため、一般的に女の子の政治参加について語るとき、障壁が少なく、その場に参加することが容易な、社会運動が大きな役割を果たしていると思うんです…両方を推し進めないといけないと思います。」

Anna、23歳、ドイツ

活動家は、社会運動や集団行動が問題を政治的な議題にすることはできても、効果的で持続可能なものにするには、変化が常に法律や政策に組み込まれる必要があることを認識している。

「そう、必要なものであり…集団による社会闘争、社会的活動を完全にするために必要不可欠なも事柄だと思うので、そして、実現するためにそれを書き留め、前例を作り、新しい世代が自身の現実に適応できるようにするためにするのです。」

Aurora、20歳、エクアドル

オンライン活動は、同じ志を持つ人々と繋がり、新しい情報を得る機会として、おおむね肯定的に受け止められている。また、Facebook、WhatsApp、Tiktok、YouTubeなど、さまざまなオンライン・プラットフォームを働きかけや啓発、キャンペーンのために利用している活動家も何人かいた。

「人々がソーシャルネットワーク上で活動し、女性のリーダーシップの問題などについて話せば、多くの若い女の子や男の子が自分の道を見つけるのに役立つと思うのです。そして、これは今の時代、素早く、多くの人々に接触する最も簡単な方法だとも思います。」

Minerva、23歳、トーゴ

活動家の参加方法に関するコメントは、ブラジルを除いて、投票するには若すぎるが、ほとんどの場合、投票するつもりだった*「Real Choices, Real Lives」*のインタビューによって概ね支持された。彼女たちはまた、特に自身のコミュニティで自分たちに関係する問題に注意を向けるための方法として、集団行動や公共の圧力を支持した。彼女たちは、投票するには若すぎ、その声は一般に無視されているユースが、政治指導者に自身の意見を伝える方法として、公共の場で抗議行動を起こすことを指摘した。

「当局は、ユースが自身の問題を提示するために彼らの家に行っても受け付けないから、行進や集会に参加します。」

Anti-Yara、16歳、RCRL、トーゴ

6.

女の子や若い 女性が政治に参加することを妨げるもの、あるいは奨励するものは何か

他者からの影響

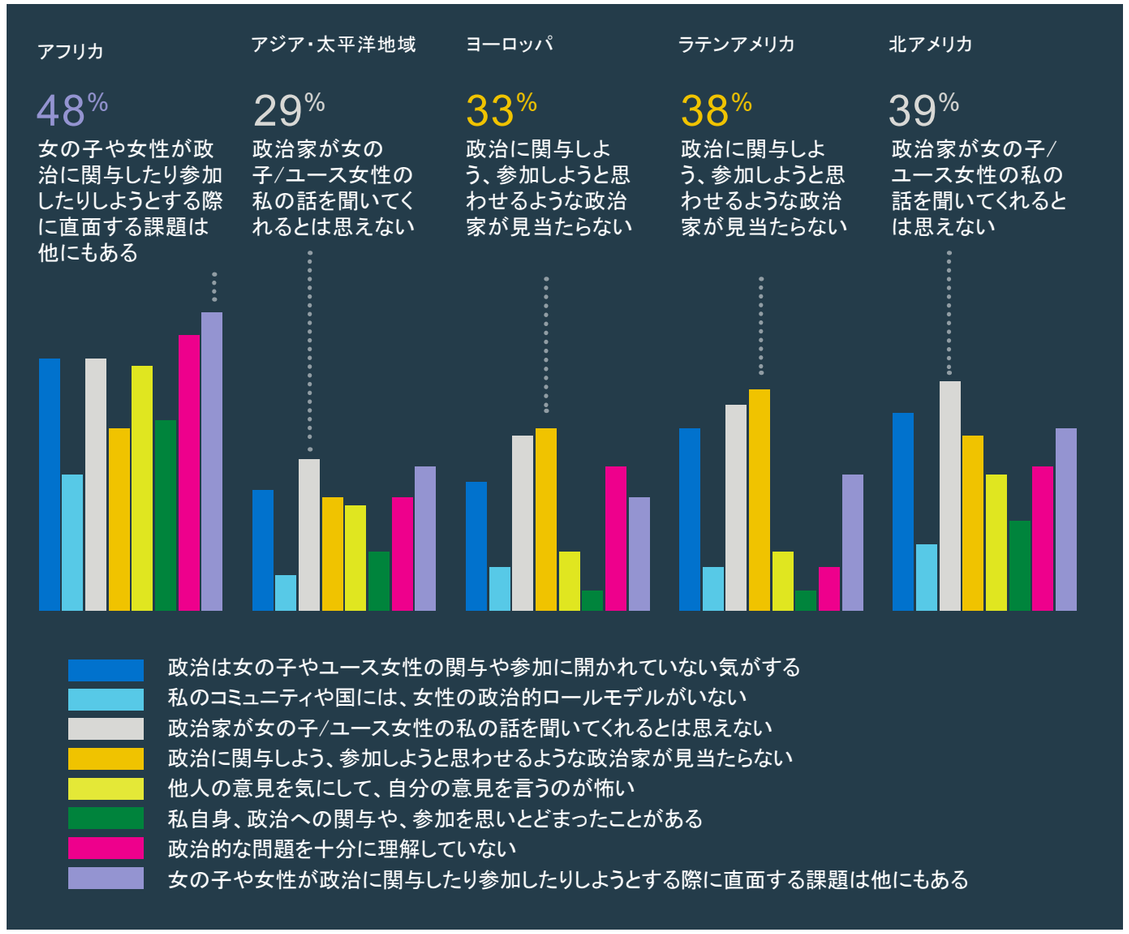
政治家の行動や態度は、調査回答者が政治参加をどう考えるかの大きな鍵となっている。政治家が女の子やユース女性の声に耳を傾けない、関与を促す政治家がいない、政治が女の子やユース女性の参加に開かれていないことを、全体的な政治離れの主要因として挙げられている。

政治参加への課題は、ヨーロッパ、アジア・太平洋地域の回答者に比べ、アフリカ、中東、北アメリカ地域の回答者がより頻繁に言及している。しかし、ラテンアメリカ・カリブ海地域の回答者は、他の地域の回答者よりも、参加する気にさせる政治家がいないと回答する傾向が強い。これは、この地域の女の子が上記で示した政治指導者に対するネガティブな認識と非常によく一致している。このセクションの研究結果は、女の子やユース女性の政治参加を阻む社会規範がいかに広く浸透しているかを示している。

94%の調査回答者が政治参加への障壁を指摘



女の子とユース女性の参加に対して認識されている課題（地域別）



女の子とユース女性の関与と参加は、彼女たちが住むコミュニティで何が受け入れられるかによって強く形作られる。「コミュニティや国の指導者に影響を与えようとすることは容認される」と答えた女の子は、50%だった。ソーシャルメディアの利用については、より自由度が高い。65%の女の子が、「自身のコミュニティでは、インターネットやソーシャルメディアを使って変化を起こすことは容認される」と答えている。

しかし、低所得国では、調査対象の女の子やユース女性の80%が「州 や国の指導者になることは問題ない」と考えているのに対し、高中所得国では39%、高所得国では51%であった。LGBTIQとして認識されている回答者は、障害者として認識されている回答者と同様に、「政治に参加したり関与したりしてもよい」と回答する割合が著しく低い。

全体的に、国会における女性の割合と、参加への具体的な課題を指摘する女の子やユース女性の数との間には関係がある。平均して、国会に占める女性の割合が低いほど、参加への障壁を指摘する女の子やユース女性の割合は高くなる。

しかし、こうした障壁にもかかわらず、調査回答者は、自身にとって政治参加は母親や祖母の時代よりも容易になっていると感じている。適切な女性の行動とみなされるものが変化している、またはインターネットやソーシャルメディアの出現とアクセス性の向上が原因かもしれない。

これだけは言いたい：女の子たちの声

質的なインタビューでも、女の子やユース女性は自身が直面する課題の大きさについて現実を直視している。

「いまだに深刻なレベルで家父長制が存在しているという認識がないのです。それが最大の障壁だと感じています。なぜなら、もしあなたがそれを認めなければ、あるいは社会がそれを認めなければ、あなたの問題や障壁は常に、完全にあなた個人に根差したものだとみなされてしまう からです。」

Anna、23歳、ドイツ

また質的インタビューから、年齢やジェンダーに関連した規範が障壁となっていることも明らかになった 。話を聞いてもらえない、相手にされないというのは、調査でもインタビューでも女の子に最も共通した心配事であり、政治的価値観の低下につながる。

「だって、何を言っても聞いてくれないんだもの。例えば、誰かが文句を言いに来ても、何も起こらない…」

Reyna、15歳、RCRL、フィリピン

これが、*「Real Choices, Real Lives」*の女の子が直面する参加への主な障壁であったと、ブラジル、フィリピン、トーゴ、ベトナムの女の子は指摘し、年齢差別と性差別が結びついた屈辱的なものだと述べている。

「若いから話せない、何も知らないと思われる…女の子が話しているから優先順位が低いと思われる。」

Amanda、15歳、RCRL、ブラジル

活動家たちも、ユース女性が貢献できることに全く関心を示さず、見下していることに言及した。

「あるところで…女性が社会のリーダーとして参加するにはどうしたらいいかという話をしたことがあるんです。そのとき、『何をやっているのかわかっているのか、お前はとても若い。だから、知らないのは当たり前だ…』といった意見をいくつかもらいました。年齢を理由に無視されるのです。」

Marchessa、22歳、タンザニア

女の子やユース女性は、活動家を含む女性の政治的リーダーに対する暴力、ハラスメント、虐待をどのように見てきたかについても述べ、それらが場合によっては彼女たちの参加を思いとどまらせたという。*「Real Choices, Real Lives」*の調査に参加した女の子たちの中には、彼女たちがコミュニティの当局に問題を提起することで暴力を受けるかもしれないことを心配している者もいた。

どちらのグループでも、女の子とユース女性は、政治制度がいかに自身の意見を述べる能力を制限し、挑戦する意欲を失わせるような仕組みになっているかについて話した。*「Real Choices, Real Lives」*参加者の女の子で、「地元の指導者に問題を提起しようとしたことがある」と述べたのは1 人だけで、その経験は望ましいものではなかった。地元の指導者は、通学路が悪いという彼女の懸念を無視しただけでなく、発言したことで別の公務員から叱られたという。

「自分が正しいときは、泣かない。泣くと何度も虐げられるから、他人から自分を守る勇気を持てと、親から教わりました。」

Christine、16歳、RCRL、フィリピン

ジェンダー平等や早すぎる結婚など、社会規範に挑戦する問題で活動家が活動する場合、コミュニティからの抵抗はより強くなる。

「ジェンダー平等の問題、女の子に平等な機会を与えること、女の子を早すぎる結婚に追い込むのではなく、勉強を続けさせること、について話すように努めます。それはとても難しいことです…その人が長い間、普通だと思っていたことについて話すのは。」

Rainbow、22歳、ウガンダ

活動家からの回答は、市民スペースの制限によって、政治的に活動する女の子やユース女性を妨害する無数の方法をも明らかにしている。ユース女性が個人的に標的にされたり、脅迫されたり、当局の調査を受けたりしたケースもあった。

「私は何本か映画を作りましたが、自治体は私を止めようとしました。警備員に頼んで、私を逮捕すると…私は17歳でした…この学校でこの活動を行うことを許可する書類を持っていると言いました。そして、すべてを提示しました… そして私は活動を続けましたが、何も起こりませんでした、でもソーシャルメディアで私のことを『私は大の悪女だ』などと沢山悪口を言われました。そして、私が『子どもたちにポルノビデオを見せようとしている』とも。」

Jen、23歳、レバノン

様々な国の他の活動家たちも、市民社会に対する規制が彼女たちの活動に与える様々な影響について述べている。それらは、投獄の脅威から、当局による街頭抗議行動の規制、組織化する能力を制限する、あるいは、活動のために当局の承認を必要とする法的制限まで、多岐にわたった。

女の子や女性の政治参加という文脈で言及された障壁の多くは、先に述べた、女の子が「女性リーダーが直面している」と考える障壁や課題と呼応している。このことは、女性リーダーが直面する障壁は女の子にも当てはまることを示している。女の子やユース女性が初めて政治に参加したときの経験は、年上の女性たちが直面してきた同じような障壁によって傷つけられ、さらに彼女たちの年齢はそれを悪化させている。

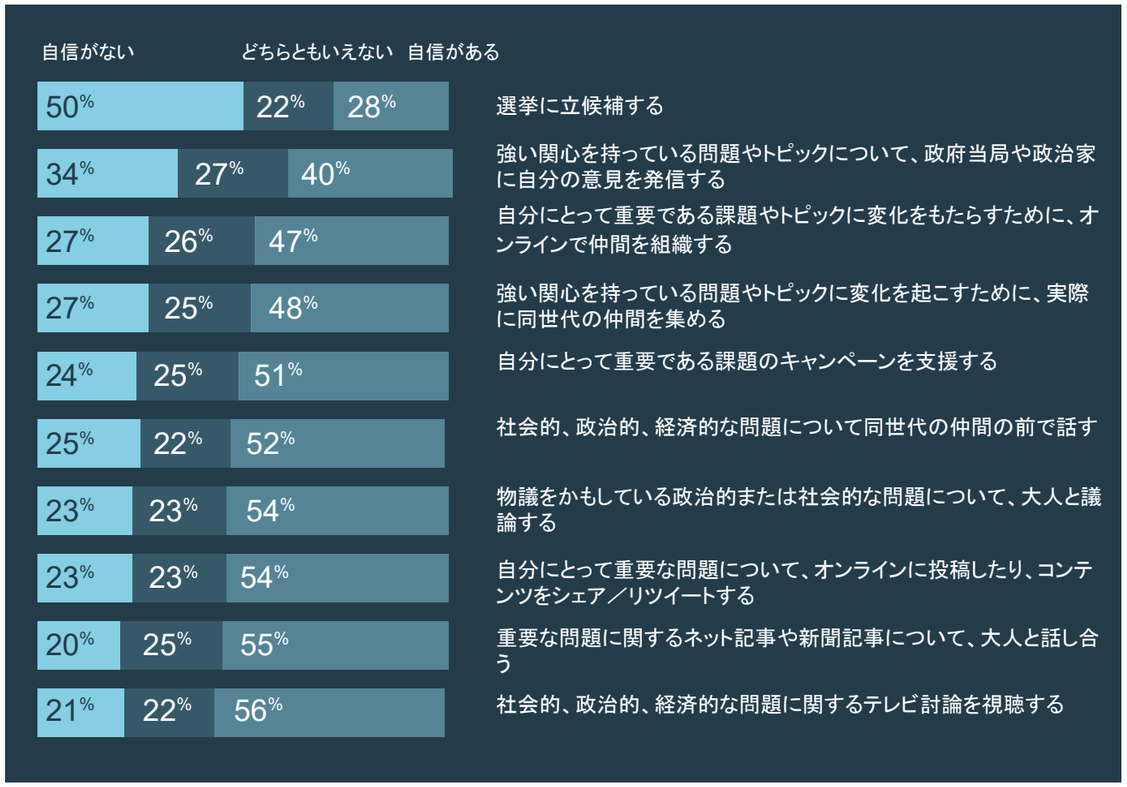
「政治というのは非常に厄介なもので、その一員になるためには、何が起きているのか、何をすべきなのか、よく知らなければなりません…政治とは、より大きな集団に対して、自分が有能であると説得するものですから…その知識や情報がないとき、自分に自信がないとき、あなたは取り残されてしまうのです。そして、ほとんどの女の子やユース女性にはそれが欠けているのです。」

Rainbow、22歳、ウガンダ

個人の自信と自己信頼

社会的状況や住んでいるコミュニティの考え方に加えて、女の子やユース女性が政治に参加する可能性は、個人の政治的アイデンティティ、価値観、行動を形成し、回復力を生み出し、自尊心を養うことができるか、できないかといった、より個人的な経験に強く影響されることを示す証拠がある。自分の能力、持っている知識やスキル、そして意見を聞いてもらう権利に自信を持つことは、非常に重要である。

政治活動関与への自信



調査回答者の5割近くが、政治参加に関して「自信がない」「自信があるかわからない」と回答している。

自信のなさは、地域毎にかなり均等に言及されている。全体として低所得国の回答者は、高所得国の回答者よりも政治的関与に自信があると感じている。人種的、民族的、宗教的マイノリティの人々は、参加者全体と比較して、より自信を感じていると回答している。LGBTIQ+、または障害者である回答者は、より自信がないと感じている。

知識や政治的スキルの欠如も、調査回答者の自信のなさの一因かもしれない。回答者の大半は、自分の国やコミュニティの政治的な仕組みについて何か知っていると感じているものの、政治家が権力を握ったときにその責任を問う方法よりも、投票制度についてよく知っていると回答している。

政治的知識を得た場所は、54%が「家庭」、52%が「学校・大学」、50%が「オンライン上のソーシャルメディア」と回答している。

これだけは言いたい：女の子たちの声

どちらの質的インタビューグループでも、自信を持つこと、市民教育や政治システムを理解することの重要性が強調されている。

*「Real Choices, Real Lives」*に参加した女の子の間では、自身の権利に関する知識と、自身が権利保持者であると認識することが、政治的有効性の感覚を高めるようであった。自身が権利保持者であると話した女の子は全員、自身で指導者や代表者に影響を与えることができると答えた。

「そう、学校では、私たちにも権利があることを教えられました。だから、私たちがしなければならない決定について、代表者に意見を言いに行くことができます。区長や市長に手紙を書くこともできる。代表のところに行っても、話を聞いてもらえなかったら、同じ悩みを持つ学生仲間を探して、一緒に地区の長に会いに行くこともできます。」

Thea、16歳、RCRL、ベナン

このような知識へのアクセスは普遍的なものではなく、*「Real Choices, Real Lives」*参加者の大半は、家族や他のコミュニティの住民たちが話し合っていることを耳にして、政治問題について間接的に知ると説明しており、これは調査の結果を反映している。メディアもまた、政治について学んだり話し合ったりする際に影響を与える要因である。ほとんどの国の女の子たちは、テレビやラジオの影響、そしてそれほどではないがインターネットやソーシャルメディアの影響を挙げている。7カ国を通じて、多くの女の子が学校で政治的な話題について話し合っていることに言及しているが、これは家族、友人、隣人間に比べると少ない。

「それらの問題について、コミュニティや家族、学校でも先生から話を聞いたり、友人とよく話し合ったりします。」

Nana-Adja、16歳、RCRL、トーゴ

ベナンとベトナムの2カ国では、女の子たちは女性や若者のグループを含む地元の組織について言及し、そこでは問題が議論され、行動が起こされていた。*「Real Choices, Real Lives」*の4人の女の子は、誰からも政治について聞かなかったと言い、ある女の子は、周りの人が興味がないだけだと言った。

予想されたことではあるが、ほぼすべての活動家が政治的な議論をしており、その多くは友人との議論であり、彼らは自分たちが変革をもたらすことができるという自信を持っていた。

「ええ、できます…問題に対処する機会があれば。」

Marchessa、22歳、タンザニア

しかし、*「Real Choices, Real Lives」*でインタビューに回答した女の子と同様に、活動家も「自身の見解や意見が大人から評価されていないと感じる」とコメントしている。

「大人が…大人同士の話を好むのは、思春期の若者にほとんど関心を持つことないからだとしばしば感じます。『いや、思春期の若者が政治について何を知るつもりなんだ』と言われることが多いからです。」

Valentina、19歳、ペルー

また、ある活動家は、大人の関与は形だけで、どこにもつながっていないと感じていた。

「彼らは私たちを専門的な生活や経験のない若者だと考えているからです…だから私たちは、今話しているし、今までも話していたのです。そう、『もちろん話すことは歓迎しますが、あなたたちの話したことを考慮するのは私たちの使命ではありません』と言われながら。」

Sara、24歳、ヨルダン

どちらのグループでも、女の子とユース女性は、女の子や女性が議論する問題と男の子や男性が議論する問題の違いや、問題の議論の仕方における性差を指摘している。女の子やユース女性は、自身の年齢やジェンダーによって制限されていると、意識している。彼女たちの自己信頼は常に四面楚歌の状態にあると感じられる一方で、社会に完全に参加するために必要な知識やスキルへのアクセスも、必要以上に困難なものとなっている。

「女性や女の子は、問題について話すことに制限があると感じています。男性の話し方は、女性の話し方とはちょっと違う……。男性は話したいことを何でも話していいですが、女性はそうではなく、女性グループはある特定のことに制限されていると思います。」

Zoe、23歳、マラウイ

道を切り開く

彼女たちが直面している課題を考えると、女の子やユース女性は、積極的に政治に関与し、排除するように設計されているように見えるシステムの中で自身の道を見つけるために、どのようなスキルや知識が必要だと考えているのだろうか。

政治参加経験のレベルは異なるが、この質問に対する回答は、2つのインタビューグループ間で酷似していた。

コミュニケーション・スキルは、まさにリストの最上位であった。『*Real Choices, Real Lives*』調査参加者の中には、クラス委員や選挙で選ばれた書記の役割を通じて、これらのスキルのいくつかを身につける機会があったと言う女の子もいたが、全体としては、もっともっと努力する必要があると断言した。活動家たちは、効果的に発言する能力と自信を持つこと、政府役人を含むさまざまな人々と話すこと、外国語の能力を持つことの重要性についても論じた。また、効果的に議論する能力や、根拠と裏づけによって守ることができる意見を述べる能力についても言及された。

強さ、勇気、自信、積極性、忍耐など、男性優位の政治分野で女性が成功するために必要な資質についての認識を反映しているのか、両グループとも、さまざまな個人的資質を挙げていた。トーゴ、ベナン、ベトナム、フィリピンの『*Real Choices, Real Lives*』参加者は、活動家が挙げなかった知恵や親しみやすさといった個人的資質も追加している。しかし、ある活動家は、要求されるスキルの幅が広すぎて不快であり、ダブルスタンダードの証拠であるとして疑問を呈した。

「何かを言うときは、自分に自信がないといけないと思うんです。自分の考えを守れるような情報源と手段を持たなければならないのです。」

Minerva、23歳、トーゴ

「それら全てのスキルが、参加するためにできるようにならなければならないことだと言うのを考えると、笑っちゃいます。『こうなりなさい…自分の意見を言えて、邪魔されず、強く、少し冷たく、でも冷たくなりすぎず』みたいな…女性には、活動を始める前に3ページ分のスキルが必要だと教えているんです。」

Anna、23歳、ドイツ

また、重要な法律や政治的構造、メカニズムなど、重要な問題に対する知識や理解、全体的な市民教育も両グループに共通して重要であるとされた。より一般的な教育の重要性も活動家によって主張され、これが政治的理解とスキルの基盤であることが強調された。

「私たちは、カリキュラムを見直す必要があります…そこにどのような種類のトピックを入れていて、それらは本当に政治と結びついているのでしょうか。もちろん、歴史や地理は重要ですが、それらが今日の私たちが今経験している現実の生活とどう結びついているのでしょうか。」

Sara、24歳、ヨルダン

平等な力をもつ人びと

若き政治家



「私たちは、家父長制に取り組み、それを打破する必要があります。そのためには、学校や幼稚園で働きかけ、本当に幼い頃から子どもたちに話をする必要があります…男性が行ける場所に私たち女性がたどり着くには、山を越えなければならないと感じたりします。私はそこに到達することができますが、そのためにはもっと努力しなければならず、それを獲得しなければならないように感じます。男性や若い男の子は、それを簡単に入手できます。」

22歳のマヤ・ルンドクヴィスト（Maja Lundqvist）は、プラン・スウェーデンに勤務する前に、7年間、ユース諮問委員会で活動していた。彼女は大学でジャーナリズムを学ぶ予定で、余暇にはサッカーをしている。マヤは長い間、政治に関心を持っていた。彼女は自身を活動家だと称しているが、効果的な変化をもたらすには、正式な政治的レベルでの関与が必要だと考えている。そのためには、たとえ全ての政策に賛成でなくても、政党に参加する必要があると考え、社会民主党に入党した。
ユース女性の多くは、正式な政治フォーラムは少し敷居が高く、おそらく退屈だと感じているが、彼女は、彼女のような若い女性が参加できる場を作り、それをもっと楽しいものにしたいと考えている。彼女は、政治参加がいかに難しいものかを過小評価してはいない。「多くの女性が憎しみを受けたり、脅かされたりしているのを見て、最初は政治的な活動をする勇気がありませんでした。男性とは別の扱いを受けているのですから」。
マヤが特に関心を寄せているのは、ジェンダー平等、子どもの権利、気候変動である。彼女は現在、社会民主党のユース女性の支部である「Rebella」の代表を務めている。スウェーデンの首相と一緒に政治活動を行い、女性のロールモデルがいかに重要かを語っている。このようなサポートがなければ、ユース女性の政治参加は難しいのだ。

写真：スウェーデン社会民主党

7.

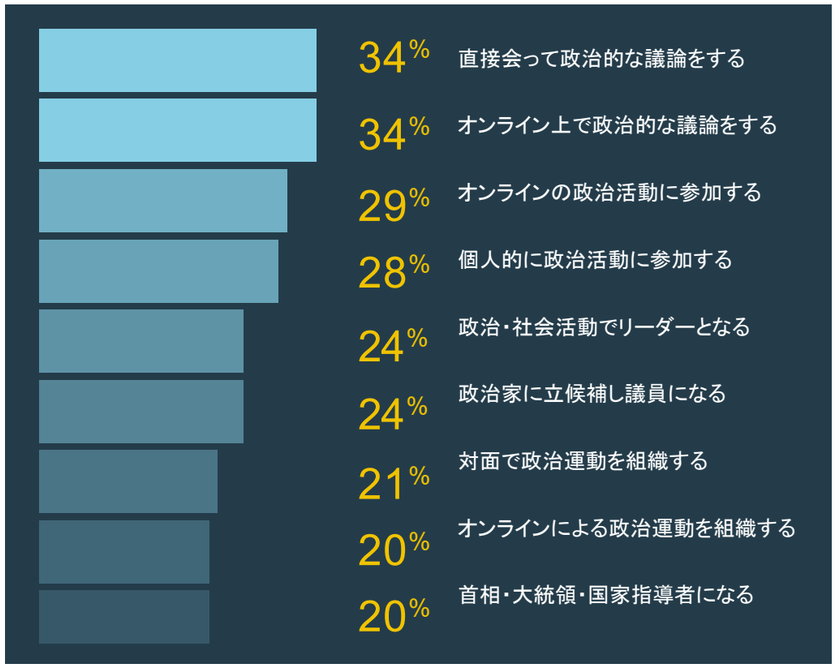
今後の展望 ー 首相、運動家、有権者。女の子とユース女性は政治の世界で自身の将来をどう考えているのか

調査回答者の多くは、自分は政治に関与しているが、特に積極的ではないと考えている。しかし、もっと意欲的な人もいれば、すでに政治から完全に離れることを決心している人もいる。このように、様々な反応があることは興味深いことであり、一部の参加者が疎んじることが他の参加者を積極的に元気づけることを物語っているのかもしれない。

政治参加への今後の抱負

21% の調査回答者が、今後、政治に全く参加する気がないと回答している。

15% の調査回答者は、関与に興味はあるかもしれないが、調査で尋ねたような方法ではないかもしれない。



また、関与意欲のある人のうち、24%が政治・社会運動のリーダーや政治家になりたいと考えている。

さらに20%が首相、大統領、国家指導者になることを希望している。

政治活動が一般的に嫌悪されている社会に住む女の子やユース女性は、政治への参加に最も意欲的であるように見える。また、国会議員に占める女性の割合が高くなり、女性の政治家や活動家がより目立つようになればなるほど、女の子たちの関与やリードに対する願望は低くなる。

多くの調査研究やインタビューに回答した女の子たちがが、ロールモデルや代表の重要性を強調していることを考えると、これは興味深い結果である。可能性の1つとして、女性政治家が直面している問題に触れる機会が増えたことで、女の子たちが参加を考え直す結果となったことが考えられる。あるいは、他の女性が政治的指導者として活躍しているのを見て、自分がやらなくても良いと感じているのかもしれない。

LGBTIQ+と回答した人は、政治や社会運動をリードしたい、立候補したい、国のリーダーになりたいと考える割合が著しく低い。地方に住む人々は、地元に関わり、社会運動に関与することに熱心だが、国のリーダーになりたいと考える人は都市部に住む人々よりはるかに少ない。

これだけは言いたい：女の子たちの声

トーゴを除くすべての国の「*Real Choices, Real Lives*」に参加した女の子の大半は、「政治的リーダーにはなりたくない」と答えたが、活動家のほとんどは、現在の活動の延長線上にあると見て、なりたい、または考えていると答えた。

政治的リーダーを目指す女の子やユース女性の間では、その理由が調査結果と強く一致しており、コミュニティや自国の発展に貢献することが重要な動機となっていることがわかった。

「コミュニティのために、国を発展させるために；女性が率先して何かをすることで、いつもうまくいくし、その人が評価され尊敬されるのはいいことだからです。」

Essohana、16歳、RCRL、トーゴ

「*Real Choices, Real Lives*」参加者の中で、政治的リーダーを目指さなかった人からは、様々な理由が挙げられている。人前で話すこととリーダーとの関連性を問題視する声があった。特にベトナムでは、リーダーシップを発揮するために必要なスキルや知識がないことが挙げられている。

「リーダーをやっていると、失敗が多いことがわかるからです。他の監視者の方が、私よりずっとうまくいっていると思います。」

Trinh、16歳、ベトナム

これらの回答は、自信の重要性と、非常に多くの女の子やユース女性にとって、有能なリーダーや熱心な市民として参加できると感じることがいかに難しいかについての、以前の研究結果を強調するものである。それは、世界中の女の子や女性に共通しているようである。

Michelle Obamaは2018年に「女の子も男性と同じように失敗してもOKになればいいのに。なぜなら、言わせてください、男性が失敗するのを見るのは ― イライラするのです。多くの男性が吹っ切れて勝つのを見るのは悔しいです。そして、私たちは自分をこうした馬鹿げた基準にがんじがらめになっているのです」[67]と発言した。

ベナンの回答者は、政治に関わりたくない理由として、政治指導者に向けられた暴力について述べている。同様に、政治的指導者の地位につきたくなかった活動家の何人かは、政治がどのようなものかという認識や、政治制度やメディアにおける女性に対する反発や否定的な態度への恐れから、政治を敬遠していると説明した。

「私にとって、政治は肯定的なものであるべきですが、私の認識では、悪いことばかり耳にするため、実際にはそうではないと思います。」

Juliette、21歳、ベルギー

政治的リーダーを目指す活動家は、ロールモデルになりたい、政治における女性代表を増やしたい、女の子に声を与えたいと話していた。また、コミュニティを変えたい、女の子やユース女性の生活や機会を改善したい、ジェンダー平等を唱えたいという人もいた。

プログラムと実践

SHE LEADS

She Leads は、オランダ外務省がプラン・オランダを通じて資金提供する5年間のプログラムで、女の子やユース女性主導の活動の支援に重点を置いている。このプログラムは、プランが、Defence for Children International、Terre des hommes、FEMNETと協力して世界各地で実施しているものであり、マリ、シエラレオネ、ガーナ、リベリア、エチオピア、ケニア、ウガンダ、ヨルダン、レバノンの9カ国でも実施されている。

***She Leads* Global Advocacy Network** は、女の子とユース女性が国連で国際的な政策プロセスに関与し、影響を与えることを支援している。東西アフリカから14人の女の子とユース女性の代表団の第66回女性の地位委員会への参加を支援したほか、アフリカ・中東6カ国から14人の女の子とユース女性が人権規約理事会への参加を支援し、彼女たちの活動を支えた。

影響

国際会議に女の子やユース女性が参加したこと、女の子やユース女性の問題が政策課題として取り上げられる結果となった。また、会議に参加した代表者自身にとっても、自信と知識の両方を高める結果となった。彼女たちはネットワークを広げ、政策の仕組みについてより深い理解を得ることができた。

「世界中で女の子やユース女性たちが多くの提唱活動を行っています。彼女たちは専門技術を身につけ、知識を持ち、自身の課題の達人であり、専門家なのです。」

Nancy、She Leadsユース代表、ケニア

国レベルでの取り組みは以下の通り。

She Leads、ヨルダン

ヨルダンの*She Leads*プログラムは、女の子とユース女性の意思決定プロセスへの影響力を高め、固定化されたジェンダー規範に基づく制度や慣習を変革することを目的としている。ヨルダン全土でワークショップ、ディスカッション、意識向上セッションを実施することで、公共空港や政治における女の子と女性の影響力を高めることを目的とした全国イベント「16 Days of Activism（16DOA）」で重要な役割を果たした。これらの活動は、地元のメディアややソーシャルメディア上で報道されることでさらに広がり、ジェンダー平等に注目が高まることとなった。ヨルダン国家女性委員会とプラン・ヨルダンのShe Leadsプログラムが共同で、記者会見が行われ、女の子と ユース女性の権利と女性が暴力にさらされることなく意思決定プロセスに参加する 重要性が初めて強調された。さらに、プラン・ヨルダンは、ヨルダン国家女性委員会のShama'aネットワーク（女性に対する暴力をなくし、地域レベルで活動する個人と組織を統合するために働く全国ネットワーク）を支援するための覚書に調印した。She Leadsプログラムの参加者は、国際的な提唱活動に参加し、ジェンダー平等の闘いにおいて女性が直面する課題や障害についての公開討論に参加する機会がある。

「女の子の教育とともに、女の子が育つ環境も考え直し、再構築しなければならない...女の子や女性の声、意見、考えのためのスペースを作るために、現実を変革することが重要なのです。」

Lujain、17歳、She Leads、ヨルダン

She Leads、ウガンダ

ウガンダの*She Leads*は、ウガンダ全土の多様な女の子やユース女性に手を差し伸べ、リーダーシップトレーニングを提供し、地域コミュニティへの参加を促している。女の子は、宗教指導者やコミュニティの指導者との交流を支援され、政策提言や法律や政策について学び、特に女の子の権利やジェンダー平等の擁護に関連するものを理解するためのトレーニングを受けている。このプロジェクトは、女の子やユース女性の政治参加への注目を高め、ユース女性リーダーたちがコミュニティに前向きな変化をもたらしている。



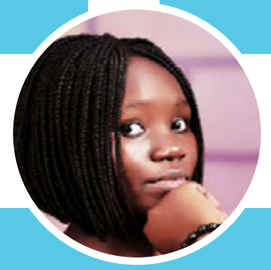
「コミュニティのリーダーになれるとは思ってもみなかったので、とても意義がある経験でした。元チャイルドマザーとして、自分のコミュニティに住む女の子やユース女性に影響を与え、変化を生み出すプラットフォームを持てるとは思ってもみませんでした。」

Poni、21歳、She Leads、ウガンダ



「自分のコミュニティに変化をもたらしていると感じています。女の子やユース女性の意見が、ある程度、指導者に考慮されていると自信を持つようになりました。私が影響を与えることができたいくつかの決定を考えると、私は仲間の女の子の人生に影響を与えることができました。」

Patricia、19歳、She Leads、ウガンダ



「人権理事会50では、女性に介護労働の対価を支払うよう要求する声明を発表し、ジェンダー間の平等を推進しました… 現在はオランダ大使館と協力して、ウガンダにおける法の支配と安全保障に関するデータを収集し、提言を行うべく活動しています。」

Solea、21歳、She Leads、ウガンダ

写真左 Poni - 中央 Solea - 右 Patricia

プログラムと実践

プラン・インターナショナル・ペルー

先住民の思春期の女の子とユース女性のための政治的エンパワーメントとリーダーシップの学校

このプログラムは4年前から実施されており、先住民族の思春期の女の子やユース女性が、自身のコミュニティの政治的、社会的、文化的生活に積極的に参加することを促進することを目的としている。このプロジェクトはペルーのアンデス高地の村で実施されているが、そこでは女の子やユース女性が意思決定者として認識されていないことが多く、また、ジェンダーに基づく暴力や暴力への恐怖が、彼らの生活や機会に悪影響を及ぼしているのだ。



「政治参加は基本的なことです、私たちを信じてくれず、私たちのニーズを優先してくれない聴衆に向かって演説することを学ぶのですから…『根性』のある女性でなければいけないとわかっています。政治に参加する女性は、時に多くの困難にぶつかると思うからです。」

Jenny、18歳、プログラム参加者

このプロジェクトは、女の子やユース女性、その両親や家族、地域のリーダーと協力し、女の子やユース女性の意思決定プロセスへの組織的な参加を促し、暴力から彼女たちを守るための支援を行っている。

「女の子に与える影響はとても大きいです。女の子は新しいことを発見し、社会の中で自身がいかに重要な存在であり、自身の夢に限界はないことに気づいています。彼女たちは野心を実現し、政治的な地位にも到達し、多くの女の子やあらゆる年齢の女性の生活を向上させ、明るい未来を与えることができるのです。」

Pamela Irco、プラン・プロジェクトワーカー

女性126人、男性46人の若いリーダーは、公正な情報慣行、地元当局との会合、啓発行進の企画など、コミュニティで積極的に活動するための訓練を受けている。ジェンダーに基づく暴力（GBV）に集中的に取り組んでおり、保護サービスの改善と縦割り行政の改善を要求した結果、州の部門横断的な暴力撲滅ユニットが設立された。

この提唱活動を継続するために8つのユース組織が設立され、「Cambiando esquemas」というラジオ・ソープオペラを制作し、ジェンダーに基づく暴力（GBV）、ライフスキル、性と生殖に関する健康というテーマに取り組んでいる。



「『手を取り合って、より良い未来のために共に』という意味のMakimantaユース団を結成したのです。組織するのは簡単ではありませんでした…パンデミックによってミーティングは制限され、オンライン接続 の悪さも課題のひとつでした。しかし今、私たちは勢いを増し、前向きな結果を出すための行動や提言計画をまとめているところです。」

Carolina、17歳、プログラム参加者

特に女の子やユース女性に影響を与える問題については、GBVを匿名で通報できるモバイルアプリの開発や、暴力が起きた場合に警告ボタンを押せるといった施策も進められており、高い注目を受けている。



Chumbivilcasで行われたユース団の会合。©Plan International

このリーダーシッププロジェクトは、女の子やユース女性の社会性やコミュニケーション能力の向上を支援するものである。彼女たちの意思決定やリーダーシップの可能性は、正式な参加の場において、コミュニティのリーダーからますます認識されるようになってきている。



「10代の高い妊娠率を下げるために、200人超の思春期の人びとをさまざまな活動に動員できたことは、素晴らしい結果でした…私は代表として、子どもと思春期の人びとの権利のために働くことを約束します。」

Katherine、15歳、プログラム参加者

写真：プラン・インターナショナル

写真：プラン・インターナショナル

写真：プラン・インターナショナル

写真：プラン・インターナショナル

結論

研究結果は、大多数の女の子が政治や政治問題に関心を持っていることを示している。その多くは、自分たちが関心を持つ問題、主にコミュニティにおける問題について、変化を求めて積極的に活動している。

女の子やユース女性は、現在自身を代表している政治家を尊敬していない。調査回答者のわずか11%が、自身が関心を寄せる問題についての決定に満足しているに過ぎない。言い換えれば、女の子やユース女性は、回答者の重要な優先事項である貧困、失業、環境の3つについて、指導者が良い仕事をあまりしていないと考えている。回答者の大多数は、少なくともある程度は将来も政治的関与を続けようとしている。女の子やユース女性の政治参加は、他の女の子やユース女性の生活を改善する必要性 — 彼女たちは自身の関心事を気にしてくれる人がいるとは信じていない、周囲の人々の模範となる必要性によって推進されている。

多くの共通項があるにもかかわらず、女の子やユース女性が同じ優先事項や関心事を持っているわけではない。調査によって、大陸、信念、アイデンティティ、そして彼女たちの多様な経験や状況によって多くの違いが明らかになった。全体として、どのように認識されようとも、また政治的関与への願望や活動のレベルがどのようなものであろうとも、女の子やユース女性は自分たちの年齢やジェンダーが生み出す障壁を強く意識していた。全体的に、彼女たちは政治家に不信感を抱き、大人に見下されていると感じていた。調査回答者の半数のみが、自身のコミュニティでは女の子が政治的に活動することは容認されていると感じていた。女の子の政治参加は、本人の関心というより、周囲の態度や支援の欠如によって条件づけられている。

「政府や他の組織は、若者や子どもたちが発言する力を与え、より多くの活動を行い、彼らの意見を聞き、彼らが話したいことを話す機会を増やすべきだと思います。そして、ベトナムの若者や子どもたちに、未だ欠けている、話を聞いてもらう機会を与えてほしいのです。」

Min、20歳、ベトナム

女の子やユース女性は、自分が代表だとは感じておらず、男性支配的な政治の場であると感じて敬遠している。また、公の場で働く女性が受けている暴力やハラスメントを目の当たりにして尻込みする人もいれば、より決意を固める人もいる。また、ジェンダー規範に阻まれ、女性が有能な政治指導者になれるとは必ずしも信じていないのだ。

「それがまだコミュニティで起こっているのは、とても悲しいことです。ほとんどの人は、女性がリードできるとは思っていませんし、女性には男性同様に参加する力があり、国会議員になれるかもしれないとも思っていません。」

Rainbow、22歳、ウガンダ

多くの課題があるにもかかわらず、女の子や女性は政治の場にとどまり続けることを選択した。議会や地方議会への立候補、投票、請願書への署名、政治的抗議活動への参加や、政策への何らかの影響力を及ぼすことを選んだ。 多くの女の子やユース女性は、オンラインで参加することを好み、政治参加へあまり正式なルートをとらないが、彼女たち、特に活動家の間では、持続可能な変化をもたらすための正式な関与の必要性は、明確に理解されていた。最終的に、政治活動の目標は政策や法律の変更に結びつけられなければならず、そのためには国との関わりが必要である。

政治参加の第一歩として、コミュニティへの関与の重要性は無視できない。コミュニティレベルの活動によって、女の子やユース女性はよくスキルを身につけ、自信を持ち、集団で活動することを学ぶことができる。だが、コミュニティレベルでの参加がネガティブな経験となり得ることも示されている。能力を高め、持続的な関与を促すためには、地域レベルの支援が重要であることは明らかである。政治的な活動家が生まれるのは、しばしばこのような場合である。



©Plan International



提言

これらの提言は、この研究に参加した女の子やユース女性たちのアイデア、経験、意見に基づいている。

Credit: House of Lords / Roger Harris

提言

信頼を築き、真の参加を促すために、権力者は女の子とそのネットワークのために、あらゆるレベルの意思決定への有意義な貢献を可能にする、公式で安全かつ包摂的な場を開かなければならない。

マルチ・ステークホルダーへの提言

1. **各国政府は**、持続可能な開発目標や、CRC、CEDAW、ICCPRに基づく国際的な義務などの**公約を果たし**、国や地方レベルでの意思決定プロセスに女の子やユース女性の参加のための法的保障を提供しなければならない。

2. **省庁や関連機関を含む政府は**、公共政策、予算、法律の設計、実施、モニタリングと評価に**女の子**とそのネットワークを**有意義に参加させ**、女の子の参加の影響を追跡するための強力な説明責任メカニズムを設置すること。

3. **政府は**、**国のユース協議会、ユース議会、その他の関連する正式な機構**を、ジェンダー・トランスフォーマティブで、そのリーダーシップがあらゆる多様性を持つ女の子と若者を代表するように**改革し、資源を提供**すること。強力な保護メカニズムを設置し、女の子が主導する組織や女の子に奉仕する組織を含む地域ネットワークと連携させる必要がある。

4. **ドナー、国連機関、政府**は、女の子とユース女性の政治的社会化と参加を優先させ、効果的な実施とモニタリング・評価の両方を可能にするために必要な資源と制度的メカニズムで支援するよう、**ユース戦略や政策を導入または更新し資金を提供すること**。

5. **政府と人道支援団体**は、人道的活動のあらゆる段階において女の子が体系的かつ有意義に参加できるよう、**人道的環境において女の子が直面する参加への障壁を取り除かなければならない**。女の子は人道的危機の中で独特のリスクに直面するが、そのニーズが優先されないことがよくある。世界的な**飢餓危機が深刻化する中**、政府と国連はその対応に女の子とユース女性を加え、彼女たちに影響を与える決定への関与を確保する義務がある。

提言

地域レベルから始めて、政治参加に向けた多様で包摂的、かつ利用しやすい道筋への女の子のアクセスを増やす

マルチ・ステークホルダーへの提言

6. **政府は**、特別措置、研修生制度、共同学習のための大人・ユースパートナーシップ、相互信頼と尊敬の構築を通じて、**ユース女性の**地方政府職への代表とアクセスを増やすことを目的とした**資源を地方レベルに割り当てる必要がある**。

7. **地方自治体の長 またはそれに相当する者は**、地方政府が**地方のあらゆる意思決定に女の子を有意に含める**ことを支援するために、割り当てられた資源で戦略を設定すること。参加型予算編成、社会監査および計画に関与する役割と能力を強化すること。

8. **地方自治体は**、**最も取り残された女の子を含む、すべての女の子に手を差し伸べるために、コミュニティベースの組織と提携し、多様な関与の機会を提供する**。デジタル・イノベーションを含む参加型メカニズムへの投資、学校組織を通じた活動、女の子が主導するグループやネットワークと正式な意思決定プロセスとの連携を行う。

提言

市民教育の提供。知識とスキルは、女の子の政治的社会化において基礎となり、政治参加への道筋となるものである。

マルチ・ステークホルダーへの提言

9. **教育省は**、**市民教育がジェンダー・トランスフォーマティブであり、全国の学校カリキュラムに含まれるようにしなければならない。**それは、ロールモデルとしての女性指導者の描写、人権、ジェンダーに配慮した投票情報、意思決定プロセスの理解、市民社会の役割などを含むべきである。政治的発言を実践する機会を提供し、政治的指導者への道筋を含め、多様な形での参加を促進する必要がある。

10. **国連機関、ドナー、国際NGOは**、教師用トレーニングリソースを含む、**ジェンダー・トランスフォーマティブ市民教育ツールおよび活動の開発を支援すること。**

11. **学校関係者（教師、評議会、保護者）**、**生徒（特に女の子）にリーダーシップを実践する機会を提供すること。**リーダーシップのスキル開発や、学校評議会や選挙など学校の統治機構における意思決定機会へのアクセスを支援すること。

12. **政府および援助機関は**、女の子、特に最も遠隔にあり、学校に通っていない女の子やユース女性に、その完全な政治的社会化を支援するための主体性、技能、市民としての知識を与える、**包摂的でコミュニティベースの非正規教育プログラムに資金を提供すること。**

提言

女の子とユース女性の政治参加を可能にし、促進するために、家庭やコミュニティの中でポジティブなジェンダー規範や社会規範を構築する。

マルチ・ステークホルダーへの提言

13. **プログラム提供者は**、女の子とユース女性のための空間を開くこと、そしてコミュニティレベルの意思決定に彼女たちが参加することの重要性について、**より広いコミュニティの関与を含む全体的なアプローチに投資すること。**

14. **国連機関、パートナーシップおよび国際NGOを含む国際機関は**、政治的指導者の地位を追求するユース女性に早期の機会と持続的な支援を提供する、メンタリングを含む長期的なプログラムに投資し、支援すること。

15. **メディアとジャーナリストは**、政治におけるGBVの発生に倫理的かつ敏感に世間の注目を集めながら、女性の政治的リーダーシップと女の子やユース女性の活動に関する前向きで多様なイメージを促進することによって、**リーダーシップを発揮する女性に対する否定的な固定観念と闘うこと。**

16. **ソーシャルメディア企業は**、オンラインのGBVに特化し、加害者の責任を追及し、女の子のニーズと経験に対応した、より強力で効果的、明快で利用しやすい報告メカニズムを作ることによって、**女の子とユース女性にとって安全なオンライン環境を作る責任を負わなければならない。**

17. **国会、公共機関、政党は**、**暴力とセクシャルハラスメントに関するゼロトレランス政策を導入し**、ユース女性、特に遠隔にあるマイノリティと重なるユース女性が経験する高い暴力のリスクに対応し、包摂的でアクセスしやすい報告メカニズムや安全な空間を提供すること。

提言

女の子たちが組織化され、動員されるよう、まずはコミュニティレベルから支援し、女の子の組織が回復力があり持続可能であるようにする。

マルチ・ステークホルダーへの提言

18. **国連、ドナー、政府は**、女の子の集団行動と組織化を支援しなければならない。危機と外的脅威に直面した際の政治的効力とその回復力を育むために、アクセス可能な資源（財政的および非財政的）、能力強化および安全な空間を提供することにより、**市民社会アクターとしての彼らの重要かつ明確な役割を認識し、強化すること。**

19. **女性の権利団体と市民社会は**、**世代間のリーダーシップとメンタリングを提供し**、より広い市民社会のプロセスへの参加を促進することによって、女の子とユース女性の団体の独特で重要な貢献を**認識し**、評価すること。

20. **国際的、地域的、政府間機関は**、女の子の人権組織および活動家にもたらされるリスクを監視、緩和、対応するために、**保護メカニズムおよび構造を導入すること。**

「より能力開発をすると、より多くのリーダーシップ、政治、重要性などに関する知識、情報を得ることができます。というのも、持っていないものを提供することはできないからです。もし、適切な資源やプラットフォームがなければ、それは非常に大きな課題となるでしょう。」

Rainbow、22歳、ウガンダ

研究方法

この研究では、大規模なアンケート調査と2組の質的インタビューにより、混合法による一次データを収集した。

アンケート調査

アンケート: 質問項目は15問設定され、そのほとんどは回答者が複数の回答コードを選択できるようになっている。質問は、政治的リーダー、問題、決定の影響についての認識、女の子やユース女性の政治への関与と参加についての認識、自分自身の政治への関与と参加の3つの分野を中心に構成されている[68]。

実施期間: データは2022年2月から4月にかけて、プラン・インターナショナルの委託により、IPSOSとGeoPollというマーケティングリサーチ会社2社が収集した。

データ収集には、2つの異なる方法論が用いられた。コンピュータ支援電話インタビュー(CATI) とコンピュータ支援ウェブインタビュー(CAWI)

対象者・参加資格:
調査対象は、15〜24歳の女の子とユース女性（LGBTIQ+を含む）である。スイスの500人を除いて、各国で1000人の15〜24歳の女の子とユース女性から回答を集めることを目標とした。

調査対象国

アフリカ: ギニア、ケニア、マラウイ、ナイジェリア、トーゴ、ザンビア

アジア・太平洋: オーストラリア、バングラデシュ、インドネシア、日本、ネパール、フィリピン、ベトナム

ヨーロッパ: オーストリア、ベルギー、フランス、ドイツ、イタリア、オランダ、スペイン、スウェーデン、スイス、イギリス

アメリカ大陸: ブラジル、カナダ、コロンビア、エクアドル、ペルー、アメリカ

参加者: 調査には、計28,751人のユース女性と女の子が参加した。20歳以上は63パーセントだった。

回答の地理的な広がりには有意な差があり、ヨーロッパ9,500人、アジア・太平洋7,000人、アフリカ・中東6,153人、ラテンアメリカ・カリブ海諸国4,000人、北アメリカ1,344人だった。

質的インタビュー

調査から得られた知見を三角測量し、政治参加の経験のレベルが対照的な女の子とユース女性の考えを理解するために、2組の質的インタビューが実施された。

- プラン・インターナショナルの***「Real Choices, Real Lives」***コホート研究に登録されている9カ国中7カ国における15〜16歳の女の子78人との半構造化質的インタビュー。女の子たちは主に農村に住んでおり、それぞれの国の中で最も所得の低い世帯の出身である（選定時）。対象国は**フィリピン、ベトナム、ベナン、トーゴ、ドミニカ共和国、ブラジル、エルサルバドル**。
- プログラムまたはキャンペーンへの参加を通じてプランが把握している **16 人の女の子およびユース女性の活動家**に対する詳細な質的インタビューである。これらの女の子とユース女性は様々な背景を持っているが、政治的に活発であることが知られているという事実に基づいて、意図的に抽出された。対象となった13カ国は**トーゴ、マラウイ、南スーダン、タンザニア、ウガンダ、ヨルダン、レバノン、ドイツ、スペイン、ベルギー、ベトナム、エクアドル、ペルー**。

2組のインタビューは同様の構成で行われ、いくつかの質問は両グループに共通するものであった。しかし、このテーマに対する理解や政治参加の経験に違いがあることが予想されたため、***「Real Choices, Real Lives」***参加者へのインタビューはより構造化され、女の子やユース女性の活動家へのインタビューには、異なるタイプの政治参加の経験を探る追加質問が含まれていた。

研究の限界と優位性

この調査データは、すべての国や地域を代表するものではない。この調査のサンプルは、可能な限り母集団を代表するように作られているが、インターネットや電話にアクセスできる人たちだけを対象にしているため、より裕福で高学歴の人をサンプルにしている可能性が高いことには注意すべきである。また、参加者数に地域的偏りがあるため、サンプル全体にも偏りがある。

質的インタビューの一部は、選択された現地の言語で実施され、後に英語に翻訳された。インタビュー中に女の子やユース女性が口にしたいくつかの概念の本来の意味は、翻訳の際に失われてしまった可能性もある。

しかし、この調査は大規模で、さまざまな文脈や国に基づいている。研究に使用された混合法は、調査データを2つの独特な質的情報源で三角測量し、さらに包括的な文献レビューで検証することを可能にした。

倫理審査とセーフガーディング

英国の Overseas Development Institute の研究倫理委員会から研究倫理の承認を得た。すべてのデータ収集方法について、潜在的なリスクと緩和策を特定するために、完全な保護リスクアセスメントが実施された。

調査請負業者は、プラン・インターナショナルのグローバル・セーフガード・ポリシーを遵守することを確認する行動規範に署名しなければならなかった。全ての参加者と、15〜17歳の保護者から同意を得た。倫理とセーフガード手続きに沿って、質的なインタビューは、セーフガードトレーニングを受け、セーフガードと紹介のプロセスについて説明を受けたプランのスタッフ2名またはコンサルタントによって行われた。インタビューに先立ち、インフォームド・コンセントと同意がなされ、記録することに口頭で同意がなされた。

匿名性と機密性は一貫して確保された。



Credit: Plan International

謝辞

まず何よりも、この研究の一環として、政治や政治参加についての見解や経験を共有してくれたすべての思春期の女の子とユース女性に感謝したい。彼女たちの時間と洞察力に感謝する。

本研究はプラン・インターナショナルにより実施され、特に以下に謝意を表する。

レポートチーム: Sharon Goulds(編集責任者兼報告書作成者)、Alison Wright、Dr Karin Diaconu、Isobel Fergus,、Jenny Rivett and Aisling Corr (原著論文執筆者)

プラン・インターナショナル編集委員会:Alison Wright(リサーチマネージャー兼レポートプロジェクトマネージャー)、Jacqueline Gallinetti博士(リサーチ・ナレッジマネジメントディレクター)、Karin Diaconu博士(リサーチマネージャー)、Isobel Fergus(リサーチマネージャー)、Danny Plunkett(コンテンツ＆クリエイティブヘッド)、Zoe Birchall(キャンペーン＆動員担当グローバルリード)、Khadijah Turner(グローバルキャンペーン担当)、Anna MacSwan(グローバルメディアマネージャー)、Mishka Martin(政策＆アドボカシリード)

追加の貢献者:前国連青年特使でNala Feminist Collectiveの創設者兼会長のAya Chebbi氏、プランのGlobal Young Influencerグループのメンバーで、序文を書いたTienとKeiver、女の子の政治参加に関するグローバル政治分析を行ったSusan Dodsworth博士、文献レビューに追加情報を提供したZainab Yunusa氏に特別謝意を表す。また、プログラムのケーススタディとプロフィールを提供してくださったプラン・インターナショナルの事務所、特にプラン・インターナショナルの国連連絡事務所、プラン・インターナショナル・ヨルダン、プラン・インターナショナル・ウガンダ、プラン・インターナショナル・ペルー、プラン・インターナショナル・セネガル、そしてプラン・インターナショナル・スウェーデンにも感謝する。

国別事務所および国内組織チーム:質的研究の推進を支援したプラン・インターナショナル事務所のスタッフ、および本報告書へのフィードバックを提供したすべての国内事務所と国別事務所に感謝する。

7カ国でのデータ収集を促進し、本報告書へのフィードバックを提供してくださった「Real Choices, Real Lives 」のフォーカルポイントとスタッフの皆様に特に感謝する。ベニンのRoland Djagaly、ブラジルのFabiane Serenoと Raila Alves、ドミニカ共和国のOlga Figuereo、エルサルバドルのYesenia Segovia、フィリピンのManny Madamba、トーゴのAbdoul Baki Labodja と Joseph Badabadi、ベトナムのTrung Truong Vu と Dai Luu Quang

リサーチ調査実施者:
Ipsos Public AffairsとGeopoll

質的インタビュー実施者:Alison Wright、Aisling Corr、Jenny Rivett、Axelle Fidelin、Khadijah Turner、Ifigeneia KamarotouとDiyane Apou Traore

デザイン:Amy Reinecke

後注

1. J. Birchall, ‘Data and evidence on global rollback of women and girls’ rights since 2016’, Knowledge, evidence and learning for development: Helpdesk Report, 2020, retrieved 30th August 2022: https://opendocs.ids.ac.uk/opendocs/bitstream/handle/20.500.12413/15886/HDR%20924%20-%20Data%20and%20evidence%20on%20rollback%20of%20women%20and%20girls%20rights%20_V3.pdf?sequence=3&isAllowed=y

2. FRIDA and AWID, Brave, Creative and Resilient: The State of Young Feminist Organizing, 2016, retrieved 10th January 2022: https://www.awid.org/publications/brave-creative-and-resilient-state-young-feminist-organizing

3. RCRL refers to Plan International *Real Choices, Real Lives*: a research study, following girls across nine countries from their birth in 2007.

4. 注。秘密選挙を保証する制度では投票を義務化できないため、「強制投票」は政治参加の定義に含まれる(J. van Deth, 'What Is Political Participation?', Politics, published 22 November 2016, https://doi.org/10.1093/acrefore/9780190228637.013.68 にて入手可能)参照。

5. 198の国・地域を対象にした調査による。サウジアラビアとブルネイは国政選挙を実施しておらず、香港とマカオは中国の選挙に参加していない。これらの国・地域 では、女性は地方選挙に参加できる。Pew Research Centre, Key facts about women’s suffrage around the world, a cen-tury after U.S. ratified 19th Amendment, 2020, retrieved 5th December 2021, https://www.pewresearch.org/fact-tank/2020/10/05/key-facts-about-womens-suffrage-around-the-world-a-century-after-u-s-ratified-19th-amendment/

6. Freedom House, Freedom in the World: The Global Expansion of Authoritarian Rule, 2022, retrieved 10th June 2022: https://freedomhouse.org/sites/default/files/2022-02/FIW_2022_PDF_Booklet_Digital_Final_Web.pdf

7. E. Harrison & K. Kristensen, ‘Secondary Impacts of COVID-19: Closing Civic Space in Fragile Contexts’, UNDP Global Policy Network Brief, Development Fu-tures Series, 2021, impacts of COVID-19: Closing civic space in fragile contexts I Unit-ed Nations Development Programme (undp.org) にて入手可能

8. UN working group on discrimination against women and girls, Gender equality and gender backlash, 2020, retrieved 20th January 2022: https://www.ohchr. org/sites/default/files/Documents/Issues/Women/WG/Gender-equality-and-gender-backlash.pdf

9. Data Reportal, Digital 2022: Global Overview Report, 2022, retrieved 5th June 2022: Digital 2022: Global Overview Report — DataReportal – Global Digital Insights

10. A. Keating & G Melis, ‘Social media and youth po-litical engagement: Preaching to the converted or pro-viding a new voice for youth?’, British Journal of Politics and International Relations, 9:4, 2017, 977-894, avail-able at: https://doi.org/10.1177/1369148117718461

11. T. Chevalier, ‘Political trust, young people and institutions in Europe: A multilevel analysis’, International Journal of Social Welfare, 28:4, 2019: 418-430. Available at: https://doi.org/10.1111/ijsw.12380

12. The Commonwealth, Global Youth Development Report: 2020, retrieved 10th December 2021: https://production-new-commonwealth-files.s3.eu-west-2.amazonaws.com/migrated/inline/5023_V3_Book_lores_smaller.pdf

13. 2021年9月現在

14. 国連常設代表部からの情報に基づきUN Womenが算出する。政府首脳と国家元首の両方を兼任する指導者もいる。選挙で選ばれた国家元首のみを考慮に入れている。Facts and figures: Women’s leadership and political participation I What we do I UN Women – Headquarters

15. 前掲書

16. 2022年7月現在。Inter-Parliamentary Union, Global and regional averages of women in national parliaments, 2022, retrieved 14th July 2022: Global and regional averages of women in national parliaments I Parline: the IPU’s Open Data Platform

17. Inter-Parliamentary Union, Youth participation in national parliaments, 2021, retrieved 25th June 2022: Youth participation in national parliaments I Inter-Parliamentary Union (ipu.org)

18. データは2022年9月1日現在のもの

19. World Economic Forum, ‘Meet our Young Global Leaders for 2020’, We Forum, 11th March 2020, re-trieved 30th August 2022: https://www.weforum.org/agenda/2020/03/ygl-wef-young-global-leaders//

20. UN Women, Women’s representation in local government: A global analysis, 2022, retrieved 25th May 2022: Women’s representation in local government: A global analysis I Publications I UN Women – Headquarters

21. World Economic Forum, Global Gender Gap Report 2022: Insight Report, 2022, retrieved 30th August 2022: https://www3.weforum.org/docs/WEF_GGGR_2022.pdf

22. C. Wolbrecht, & D. Campbell, ‘Leading by Example: Female members of parliament as political role models’, American Journal of Political Science, 51:4, 2007, 921-

939ページ, https://www.jstor.org/stable/4620108 にて入手可能

23. Plan International, Taking the Lead, 2019, retrieved 16th March 2022, takingthelead-full-report-1.pdf (plan-international.org)

24. M. Hooghe & D. Stolle, 'Good Girls Go to the Polling Booth, Bad Boys Go Everywhere: Gender Differences in Anticipated Political Participation Among American Fourteen-Year Olds', Journal of Women Politics and Policy, 26:3: 1-23, 2004, available at: Pages from J014v26n03_Sample-3.PDF (researchgate.net)

25. Inter-Parliamentary Union, Youth participation in national parliaments, 2021, retrieved 25th June 2022: Youth pcarticipation in national parliaments I Inter-Parliamentary Union (ipu.org)

26. 若者、平和、安全に関する世界連合が作成した情報には、若者を包摂する政策とプロセスの育成に関する近刊の報告書も含まれている。連合に関する一般的な情報は以下を参照のこと。https://cnxus.org/resource/global-coalition-for-youth-peace-secu-rity-newsletter-july-2022 (2022年8月30日検索)

27. J. Lawless & R. Fox, 'Why Are Women Still Not Running for Public Office?', Issues in Governance Studies, 16, 2008, retrieved 5th May 2022: 05_women_lawless_fox.pdf (brookings.edu)

28. A. Booth & P. Nolen. 'Choosing to Compete: How Different Are Girls and Boys?", Journal of Economic Behavior & Organization 81: 2, 2012: 542–55

29. Women in Parliaments Global Forum and The World Bank, 'The Female Political Career: Women MPs Still Face Obstacles to Elected Office, 2015, retrieved 8th January 2022: The Female Political Career: Women MPs Still Face Obstacles to Elected Office (worldbank.org)

30. Women Deliver, 'Strengthen Girls' and Women's Political Participation and Decision-Making Power', n.d. retrieved 5th January 2022: 2019-8-D4G_Brief_Political.pdf (womendeliver.org)

31. 前掲書

32. 例として、Australian Associated Press, 'Scott Morrison Tells Students Striking over Climate Change to Be "Less Activist"', The Guardian, 2018年11月26日, sec. Environment を参照のこと。https://www. theguardian.com/environment/2018/nov/26/scott-morrison-tells-students-striking-over-climate-change-to-be-less-activist.(2022年8月30日検索)

33. R. Sheppard, 'Constructs of Childhood, Generation and Heroism in Editorials on Young People's Climate Change Activism: Their Mobilisation and Effects', Children & Society 3532021 380–394 ページ, https://doi.org/10.1111/chso.12447.にて入手可能

34. H. Gordon & J. Taft, 'Rethinking Youth Political Socialization: Teenage Activists Talk Back', Youth & Society 43:4, 2011: 1499–1527, https://journals.sagepub.com/doi/abs/10.1177/0044118X10386087

35. 例えば、Fiji Women's Forum and Internation-al Women's Development Agency, 'Public Perceptions of Women in Leadership', International Women's Development Agency, 2014, (https://iwda.org.au/assets/files/Public-Perceptions-of-Women-in-Leadership.pdf にて入手可能) を参照のこと

36. P. Domingo, R. Holmes, T. O'Neil, N. Jones, K. Bird, A. Larson, E. Presler-Marshall & C. Valters, 'Women's voice and leadership in decision-making: Assessing the evidence', ODI, 2014, https://assets.publish-ing.service.gov.uk/media/57a08977e5274a31e00000c4/Womens_Voice.pdf (publishing.service.gov.uk) にて入手可能

37. A. Best, 'Freedom, Constraint, and Family Responsibility: Teens and Parents Collaboratively Negotiate Around the Car, Class, Gender, and Culture', Journal of Family Issues 27: 1, 2006: 55–84, https://doi.org/10.1177/0192513X05275422

38. H. Gordon & J. Taft, Rethinking Youth Political Socialization: Teenage Activists Talk Back, 2011 Youth & Society 43:4, 2011: 1499–1527, https://doi.org/10.1177/0044118X10386087. (sagepub.com) にて入手可能

39. S. Schwarzer and D. Connor. 'Political Engagement among the Youth: Effects of Political Socialisation across Europe.' 2013, In Democracy in Transition: Political Participation in the European Union, K. Demetriou (ed), 253–72. Berlin: Springer. (PDF) Available at https://www.academia.edu/8838932/Democracy_in_Transition_Political_Participation_in_the_European_Union_Editor

40. R. Fox & J. Lawless, 'Uncovering the Origins of the Gender Gap in Political Ambition', American Political Science Review 108: 3, 2014: 499–519, available at https://doi.org/10.1017/S0003055414000227

41. J. Weiss, 'What is youth political participation? Liter-ature review on youth political participation and political attitudes', Frontiers in Political Science, 15th May 2020, available at https://doi.org/10.3389/fpos.2020.00001

42. H. Pfanzelt & D. Spies, 'The Gender Gap in Youth Political Participation: Evidence from Germany', Political Research Quarterly 72:1, 2019: 34–48, https://doi.org/10.1177/1065912918775249.

43. J. Booth-Tobin & H. Han, 'Motivated by Change: Po-litical Activism of Young Women in the 2008 Presidential Campaign', Women's Studies Quarterly 38, no. 1/2 (2010): 115–29, available at: https://resolver.scholarsportal.info/resolve/07321562/v38i0001/115_mbcpaowit2pc.xml

44. 前掲書

45. M. Hooghe & D. Stolle, 'Good Girls Go to the Polling Booth, Bad Boys Go Everywhere: Gender Differences in Anticipated Political Participation Among American Fourteen-Year Olds', Journal of Women Politics and Policy, 26:3: 1-23, 2004, Pages from J014v26n03_Sample-3..PDF (researchgate.net) にて入手可能

46. M. Collins, A. Augsberger & W. Gecker, 'Youth Councils in Municipal Government: Examination of Ac-tivities, Impact and Barriers', Children and Youth Services Review 65, 2016: 140–147ページ, https://doi.org/10.1016/j.childyouth.2016.04.007. にて入手可能

47. M. Shephard & S. Patrikios, 'Making Democracy Work by Early Formal Engagement? A Comparative Exploration of Youth Parliaments in the EU', Parliamentary Affairs 66:4, 2013: 752–771 ページ, https://doi.org/10.1093/pa/gss017 にて入手可能

48. M. Collins, A. Augsberger & W. Gecker, 'Youth Councils in Municipal Government: Examination of Ac-tivities, Impact and Barriers', Children and Youth Services Review 65, 2016: 140–147ページ, https://doi.org/10.1016/j.childyouth.2016.04.007 にて入手可能

49. S. Finlay, 'Carving Out Meaningful Spaces for Youth Participation and Engagement in Decision-Making', Youth Studies Australia 29: 4, 2010: 57, https://doi.org/10.3316/ielapa.568641998471768.

50. H. Gordon & J. Taft, 'Rethinking Youth Political Socialization: Teenage Activists Talk Back', Youth & Society 43:4, 2011: 1499–1527ページ, https://doi.org/10.1177/0044118X10386087 にて入手可能

51. H. Pfanzelt & D. Spies, 'The Gender Gap in Youth Political Participation: Evidence from Germany', Political Research Quarterly 72:1, 2019: 45ページ, https://doi.org/10.1177/1065912918775249 にて入手可能

52. A. Keating, & G. Melis, 'Social media and youth po-litical engagement: Preaching to the converted or providing a new voice for youth?' British Journal of Politics and International Relations 19:4, 2017: 877-894ページ, https://doi.org/10.1177/1369148117718461 にて入手可能

53. A. Cho, J. Byrne & Z. Pelter, Digital civic engagement by young people, UNICEF Office of Global Insight and Policy, 2020, retrieved 15th May 2022: Digital-civic-en-gagement-by-young-people-2020_4.pdf (unicef.org)

54. A. Keating, & G. Melis, 'Social media and youth po-litical engagement: Preaching to the converted or providing a new voice for youth?' British Journal of Politics and International Relations 19:4, 2017: 877-894ページ, : https://doi.org/10.1177/1369148117718461 にて入手可能

55. T. Brimacombe, R. Kant, G. Finau, J. Tarai and J. Titifanue, 'A New Frontier in Digital Activism: An Exploration of Digital Feminism in Fiji', Asia & the Pacific Policy Studies 5:3, 2018: 508–521 ページ, https://doi.org/10.1002/app5.253 にて入手可能

56. Amnesty International, 'Toxic Twitter: A Toxic Place for Women', 2018, retrieved 16th May 2022: Toxic Twit-ter - A Toxic Place for Women - Amnesty International

57. R. Izsák-Ndiaye, If I Disappear: Global Report on Protecting Young People in Civic Space, Office of the Secretary-General's Envoy on Youth, 2021, re-trieved 18th June 2022, UN-A4 NEW.indd

58. A. Santos, 'Young Filipino feminists: the personal and the sexual are political', Heinrich Böll Stiftung, 15th December 2021, retrieved 3rd August 2022: https://eu.boell.org/en/young-voices-philippines

59. S. Yatco, 'Youth-led org's call to destigmatize sex talk in PH', Philippine Daily Inquirer, 27th July 27, 2021, retrieved 3rd August 2022: Youth-led org's call to destigmatize sex talk in PH I Inquirer Lifestyle/

60. Mama Cash and FRIDA, Girls to the Front: a snap-short of girl-led organisations, 2018, retrieved 15th June 2022: https://www.mamacash.org/en/report-girls-to-the-front

61. FRIDA and AWID, Brave, Creative and Resilient: The State of Young Feminist Organizing, 2016, retrieved 10th January 2022: https://www.awid.org/publications/brave-creative-and-resilient-state-young-feminist-organizing

62. *「Real Choices, Real Lives」*コホート調査では、政治が何であるか知らない、または政治から連想することを表現できないと答えた女の子が少数ながらいた。

63. A. Olaiya, 'Afro-Colombia Vice Pres. After 200 Years: Francia Thanks Ancestors', The Ancestral News, 21st June 2022, retrieved 3rd August 2022: https://ancestrals.com.ng/2022/06/21/ancestral-first-afro-colombian-vice-president-after-200-years-thanks-orunmila/

64. A. Okunola, 'Young, Bold, Feminist: How Is Nigeria's Damilola Odufuwa Creating Space for Africa's Women?' Global Citizen, 22nd January 2022, retrieved 3rd August 2022: https://www.globalcitizen.org/en/content/feminist-coalition-damilola-odufuwa-nigeria-women/?ref=dishapages

65. 前掲書

66. アフロブラジル人は、ブラジル人口の50.7%を占める。.

67 D. Selby, 'Former First Lady Michelle Obama Wishes Men Could Fail Like Women', Global Citizen, 07th May 2018, retrieved 30th August 2022, https://www.globalcitizen.org/fr/content/michelle-obama-tracee-ellis-ross-gender-equality/

68. 主要な調査項目は、各国の事情に合うように調整された。具体的には、ベトナムでは1つの質問（政治指導者の決定による感情）が削除され、米国とオーストラリアでは国の政治状況に関連した質問が追加された（これらの追加質問は、本報告書の一部としては分析されていない）。

プラン・インターナショナルについて

女の子の力を、世界を変える力にする。

プラン・インターナショナルは、女の子が本来持つ力を引き出すことで地域社会に前向きな変化をもたらし、世界が直面している課題の解決に取り組む国際NGOです。世界75カ国以上で活動。世界規模のネットワークと長年の経験に基づく豊富な知見で、弱い立場に置かれがちな女の子が尊重され、自分の人生を主体的に選択することができる世界の実現に取り組んでいます。

GIRLS GET EQUAL（ガールズ・ゲット・イコール、GGE）

Plan International has been campaigning for girls' rights プラン・インターナショナルは、10年あまりにわたり女の子の権利のためのキャンペーンを行ってきました。現在のGGEキャンペーンは、女の子とユース女性が自らの人生に対する力を持ち、周囲の世界を形作る手助けをすることを目的としています。リーダーシップの推進と女の子の声の増幅は、このキャンペーンの中心です。女の子たちが権力者にアクセスし、自分たちの生活を形成するのに役立つ決定に関与できるようにすることは、女の子たちの権利を維持するために極めて重要です。彼女たちの政治への関与はあらゆるレベルで支援される必要があり、政治参加を阻む障壁は認識され取り除かれなければなりません。

Plan International
Global Hub

Dukes Court, Duke Street, Woking,
Surrey GU21 5BH, United Kingdom

Tel: +44 (0) 1483 755155
Fax: +44 (0) 1483 756505
E-mail: info@plan-international.org

plan-international.org

Published in 2022

facebook.com/planinternational
twitter.com/planglobal
instagram.com/planinternational
linkedin.com/company/plan-international
youtube.com/user/planinternationaltv